

千葉縣產業組合大會記錄

產業組合中央會

千葉支會

納本

267

715

千葉縣產業組合聯合大會順序

開會明治四十四年五月八日午前九時



一、千葉縣地方資料館農畜部出品展覽會參觀  
二、千葉縣產業組合成體團覽會ノ地方資料展覽會場ノ内ニ陳列シテ  
三、千葉縣農會聯合會役員氏名

千葉郡

千葉郡書記

千葉郡購買販賣組合理事

全

並田町信用組合理事

並田信用購買組合理事

並田町信用組合理事

並田信用販賣組合理事

青野新藏  
大塚肅亮  
初芝安三郎  
河野徳次郎  
君塚初太郎  
杉山安之丞  
花島育太郎

明治  
45. 4. 19  
内交

全

千葉信用組合理事長

中田信用購買組合理事

積福信用購買販賣組合理事長

千葉戊申信用購買組合理事

高田信用組合理事長

陸信用組合理事長

知區信用購買販賣組合理事長

市原郡

市原郡書記

德氏信用組合理事

東國吉信用組合理事

布南購買販賣組合理事

全

小田郡信用購買組合理事

全

大和信用組合理事

養老信用組合理事

東葛飾郡

東葛飾郡書記

泉信用購買組合理事

全

風早村信用組合理事

印旛郡

東郷信用組合理事

草深信用組合理事

野住戊申信用組合理事

内田戊申信用組合理事

全

甘樂社酒々井組合理事

根郷村農事信用組合理事

中郷信用購買組合理事

保品信用購買組合理事

根郷村信用組合

和良比購買組合理事

八生信用購買組合理事

庚戌信用購買組合理事

富里信用購買組合理事

町野左右治

荒井兵次郎

篠崎彌惣治

外四一人

海老原仁三郎

山本祐利

大塚時藏

豊田貞三郎

秋山利一

佐藤爲藏

齋藤嘉兵衛

鴫田

小出龜太郎

高山安行

高浦勝藏

白井吉太郎

秦野真治

征矢英太郎

水崎政吉

永岡勳治郎

石井元助

島村運平

海老原卓爾

香取友吉

日暮東太郎

栗生重次郎

栗生清助

鶴岡造酒右衛門

渡邊庄治

岩澤禎之助

清宮清五郎

穴倉榮吉

大川和一郎

小川亥之松

外一人

佐瀬禎三郎

石原幸作

全  
千葉信用組合理事長  
中田信用購買組合理事

横橋信用購買販賣組合理事長  
千葉成申信用購買組合書記  
高田信用組合理事長  
陸信用組合理事長  
知富信用購買販賣組合理事長

市原郡

市原郡書記  
德氏信用組合理事  
東國吉信用組合理事  
布南購買販賣組合理事

全  
小田郡信用購買組合理事  
大和信用組合理事  
養老信用組合理事

東葛飾郡

東葛飾郡書記  
泉信用購買組合理事  
全  
風早村信用組合理事

印旛郡

東郷信用組合理事  
藤深信用組合監事  
巖住成申信用組合員  
内田成申信用組合理事  
全  
甘樂社酒々井組合理事  
根郷村農事信用組合理事  
中郷信用購買組合理事  
保品信用購買組合理事  
根郷村信用組合  
和良比購買組合理事  
八生信用購買組合理事  
庚戌信用購買組合理事  
富里信用購買組合理事

町野左右治  
荒井兵次郎  
篠崎彌惣治  
外 四 人

海老原仁三郎  
山本祐利  
大塚時藏  
豊田貞三郎  
秋山利一

佐藤爲藏  
齋藤嘉兵衛  
小出龜太郎

高山安行  
高浦勝藏  
白井吉太郎  
秦野真治  
征矢英太郎

水崎政吉  
永岡劬治郎  
石井元助  
島村運平

海老原卓爾  
香取友吉  
日暮東太郎  
栗生重次郎  
栗生清助  
鶴岡造酒右衛門  
渡邊庄治

岩澤禎之助  
清宮清五郎  
穴倉榮吉  
大川和一郎  
小川亥之松

外 一 人  
佐瀬禎三郎  
石原幸作

草深信用組合理事  
 和良比購買組合理事  
 根鄉村農事信用組合理事  
 中郷信用購買組合理事  
 全  
 草深信用組合理事長  
 印旛郡書記  
 長生郡書記  
 南白宮信用組合理事  
 全  
 立木信用組合理事  
 全 監事  
 茂原信用組合理事  
 藤南信用組合理事  
 南白宮信用組合理事  
 一之宮信用組合理事  
 全

長生郡

外 四  
 船谷初太郎  
 山口惣太郎  
 山田利助  
 寺田利助  
 秋山順助  
 大木丑松  
 香取順  
 秋本五平  
 石橋貞三  
 中村榮吉  
 齋藤忠藏  
 北田佐善  
 今關一  
 高橋徵輔  
 板倉謙輔  
 瀧田勝也  
 渡邊主計  
 森邊主計  
 高梨金次郎

中善寺信用購買組合理事  
 立木信用組合信用評定委員  
 全 理事  
 全 監事  
 寺岡信用購買組合理事  
 西村購買販賣組合書記  
 寺岡信用購買組合理事  
 山武殖産信用組合理事  
 全

山武郡

屋形信用組合理事  
 全  
 全  
 全  
 姫島報徳信用組合理事  
 全  
 全  
 大總信用購買販賣組合理事  
 道庭購買組合理事

林 義 三 郎  
 江 澤 源 三 郎  
 麻 野 利 春 治  
 河 野 利 春 治  
 齋 藤 豐 藏  
 金 木 寅 吉  
 野 口 爲 作  
 石 井 宇 平  
 土 外 一 人 中  
 早 川 春 藏  
 伊 藤 岩 吉  
 海 保 從 治  
 海 保 彌 四  
 浦 上 甚 一 郎  
 鈴 木 平 次 郎  
 鶴 澤 醇 一  
 行 方 哲 次  
 石 井 鶴 次  
 五



全 長部信用購買組合理事  
 全 理事  
 厚宿信用組合理事  
 八部村田部信用購買販賣組合理事  
 長部信用購買組合員  
 全  
 奈土勸農信用購買組合長  
 高倉信用組合員  
 全  
 全  
 全  
 全  
 全  
 海上郡  
 尾川信用購買販賣組合理事  
 全  
 全  
 全

八  
 岩崎重五郎  
 高木源十郎  
 高木政次郎  
 高木清之助  
 鈴木庄太郎  
 秋葉榮藏  
 高木四郎太郎  
 高木太一郎  
 金岡仙之助  
 根本柳太郎  
 櫻井謙次郎  
 櫻井惣太郎  
 根本由次郎  
 根本治作  
 古川丈作  
 岩井雄策  
 加藤半兵衛  
 姥山寅松  
 岩井三

鏡子機業信用購買販賣組合理事  
 高田信用組合長  
 堀内報徳信用購買組合理事  
 鏡子信用組合長  
 余業購買販賣組合理事  
 全  
 海上郡書記  
 四日市場信用購買組合理事  
 新川信用組合理事  
 鏡子信用組合理事  
 芦崎報徳信用組合理事  
 瀬郷信用組合理事  
 匝 瑳 郡  
 東郷農友信用購買組合理事  
 春海南郷信用組合理事  
 椿信用組合理事

常枝宇兵衛  
 宮内鶴松  
 石毛伊助  
 柳堀喜一郎  
 大木喜兵衛  
 大木半兵衛  
 宮内三郎  
 衣幡泰之助  
 齋藤安五郎  
 大橋幸吉  
 木内勝司  
 外野岩四郎  
 及川義一  
 外八人  
 高橋市之助  
 外一人  
 香取幸之助  
 九

貝塚購買販賣組合理事  
併會根信用組合理事

椿信用組合理事

東陽村入區信用組合理事

全

南條村母子信用組合理事

春海信用組合理事

阪南信用組合理事

貝塚購買販賣組合理事

全

全

君津郡

君津郡書記

豊岡信用組合理事

全

代宿信用組合理事

磯陀信用組合理事

全

成申信用組合理事

牛込信用組合理事

佐賀信用組合理事

全

吉野信用組合理事

全

全

全

全

博愛信用組合理事

奥畑信用組合理事

君東購買販賣組合理事

中都信用組合理事

全

理事

豊岡信用組合理事

畔戶信用組合理事

飯野村第二區信用組合理事

外 十 二人

大 二 岩 松 人

鈴 木 源 太 郎

伊 橋 清 太 郎

林 清 次 郎

淺 野 德 次 郎

齋 藤 清 平

小 林 東 次 郎

實 川 清 三 郎

布 施 利 助

布 施 利 助

熊 切 和 一

茂 木 吉 之 助

茂 木 彦 次 郎

大 森 間 三

渡 邊 一 助

渡 邊 一 助

石 井 庄 之 助

山 田 岩 次 郎

伊 藤 安 次 郎

大 森 俊

本 田 由 太 郎

矢 部 八 彌

土 橋 重 三 郎

為 川 兵 藏

鈴 木 稔

大 森 倉 太 郎

鈴 木 清

三 平 市 三 郎

小 倉 富 藏

白 井 菊 之 助

佐 久 間 長 太 郎

茂 木 善 吉

高 浦 吉 造

外 三 人

高 橋 勝 藏



全 岩坂信用組合理事 監事

全 馬來田信用組合理事長

全

夷隅郡

夷隅郡書記

松都信用組合理事

西畑信用組合理事

宿戸信用組合理事

全 西畑信用組合監事

安房郡

安房郡農業技手

北三原生産信用購買販賣組合理事

相模信用組合理事

大崎宮信用組合理事

岩信用購買組合理事

壹田信用組合理事

十二

和村廣吉

中後吉

前田梅吉

根本健治

新井松藏

關州市

高州留造

吉野敷治

土屋徳太郎

竹下熊吉

野口萬吉

飯塚貞一

相澤林藏

青田周藏

水澤熊次郎

中村庫吉

龜田庫吉

永井正治

眞田倉治

川名茗太郎

松下勇吉

佐野金次郎

石井卯之助

鈴木竹之助

貝塚岩松

大川西信組合理事

全

會呂村畑信用組合理事

全

西畑信用組合理事

全

縣外

茨城縣行方郡有限責任麻生購買販賣組合理事長

當日列席シタル役員氏名

會長 (千葉縣内務部長)

副會長 (千葉縣事務官補)

理事 (千葉縣屬)

全 (全)

全 (千葉縣農會技手)

評議員 夷隅郡 西畑信用組合

全 印旛郡根郷村農事信用組合

全 山武郡千代田信用購買販賣組合

帆足準三

脇本米司

丸山操

朝倉巖

河野鈴雄

渡部啓次

全

- 全 千葉郡 債權信用購買販賣組合
- 全 安房郡 本神宮信用組合
- 全 匝瑳郡 南條村母子區信用組合
- 全 香取郡 高倉信用組合
- 全 市原郡 泰野真治

### 三 協議問題

#### (イ) 支會提出協議題

一、産業組合法ニ依リ産業組合聯合會ノ設立並組織ニ關スル件

(決定) 聯合會ノ必要ヲ認メ其ノ設立並組織方法調査ノ爲メ委員九名ヲ舉ゲ之ヲ付託セリ

#### (ロ) 組合提出協議題

一、産業組合ノ事業年度ハ普通曆年度ニ依ルモ政府會計年度ト同ジク四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トスル方適當ナルハシ

長生郡立木信用組合

(決定) 各組合ノ狀況ニ任セ本會ニ於テ決議スルノ必要ナシ

二、組合員ヨリ組合員ニ交付スル貯金通報ニ貼用ノ印紙稅免除ヲ中央會ヲ經テ其ノ筋へ請願ノ件

君津郡豊岡信用組合

(決定) 全國産業組合大會ニ於テ決議シ其ノ筋へ交渉中ニ付特ニ決議スルノ必要ナシ

三、町村ニ同種類ノ産業組合ヲ設立セザル件

千葉郡債權信用販賣購買組合

(決定) 「町村」トアルヲ「区域内」ト修正其ノ筋へ建議スルコト

四、組合カ銀行ト借越契約ヲナレ之レヨリ借入レタル場合ニ於ケル借入金台帳ノ様式ヲ定メラレンコトヲ其ノ筋へ建議ノ件

五、信用組法定款中第一回拂込後一ケ年以内ニ全額ヲ拂込ムコトヲ得ル規定ヲ設ケタル組合ニ對シテハ持分算定ノ條項ヲ左ノ如ク規定スルノ件

(一) 出資額ニ相當スル財産ニ對シテハ出資額ニ應シ算定ス

(二) 準備金及特別積立金ニ對シテハ初年度ニ於テハ出資累計額ニ應シ算定シ第二年目ヨリハ持分累計額ニヨリ年度毎ニ算定加算ス

安房郡會呂村畑信用組合

(決定) 四ハ借入金臺帳ヲ應用シ得ヘキヲ以テ建議ノ必要ナシ五ハ各組合ノ定款ヲ以テ規定シ得ヘキヲ以テ決定スルノ必要ナシ

六、各組合ハ地方農會ト氣脈ヲ通シ米質改良ノ目的ヲ以テ少クモ壹反歩以上ノ採種田ヲ設置スルコト

七、各組合ハ地方蠶業組合ト協力シテ蠶種ノ統一及桑園種苗交換場ヲ設置スルコト

匝瑳郡東陽村入區信用組合

(決定) 各組合ノ狀況ニ一任スルコト

八、縣下産業組合ノ發達ヲ圖ル爲メ産業組合中央會千葉支會ニ對シ縣費ヲ以テ補助アラレンコトヲ其筋へ建議スルノ件

君津郡吉野信用組合

(決定) 補助ノ必要ヲ認メ更ニ金額ヲ一千圓以上トシ本縣知事ニ申請スルコト

#### 四 千葉縣產業組合聯合大會決議事項

昭和十四年五月八日(月曜日)午前十時三十六分開會

○支會長(藤本副會長) 以下各御登壇ノ上斯ク多數本會ニ御臨席ヲ受ケマシタノハ誠ニ光榮ト存ジマス、本日ハ支會長が已ニソコニ御登壇セザイマシテ今少シコナラニ御出ダシタルコトガ遅クナリマスノゾ、私ガ當時ノ間代理ヲ勤メマスガ、左様御承知ヲ願ヒマス、コレカラ諸君ノ御手許ニ差上ゲテアリマスル順序ニ依リマシテ組合提出ノ協議問題ヲ御相談スルコトニ致シマス(協議問題別掲)

○番外(渡部理事) 組合提出ノ協議問題第一號ニ就キ簡單ニ説明イタシテ置キマス第一號ハ長生郡立木信用組合ノ提出案デゴザイマスガ其提出ノ理由ハ茲ニ掲ゲテ置キマシタ通り專業年度ヲ曆年度ニスルノガ適當カ會計年度ニスルガ適當カト云フ問題デゴザイマスソレニ就テ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○支會長代理(藤本副會長) 勝廻シニ致シマス  
(「本日の大分開會モ後レテ居リマス且ツ組合員ノ實際談來賓ノ御演說モアリ旁々協議問題ヲ逐一討論シマスト大分時間ヲ要スルコトニナリマスカラ各案ヲ議長指名ノ委員ニ付託シテ討議シタイト思ヒマス」ト呼フ者アリ)

○支會長代理(藤本副會長) 總テノ問題デアリマスカ  
(「左様デゴザイマス」ト呼フ者アリ)  
(「提出案ハ會計年度ト云フコトニナツテ居リマスガ是ハ曆年度ノ方ガ宜カラウト思ヒマス」ト呼フ者アリ)  
○支會長代理(藤本副會長) 總ニ御提出ニナリマシタ委員付託ノ問題ニハ御賛成ノ方ハアリマセヨカ  
○和協信用組合(櫻井組合長) 唯今ノ委員付託ノ動議ニ賛成イタシマス  
(「委員付託ニ賛成デゴザイマス」ト呼フ者多數)

○支會長代理(脇本副會長) 唯今一カラ八マデ總テノ協議問題ヲ委員ニ付託イタシテ調査シタイト云フ議ニ對シテハ御賛成者ガゴザイマス、之ヲ先キニ決シマシテ若シモ是ガ成立チマセヌ場合ニ於テハ各問題ニ付イテ御協議ヲ願フコトニ致シタイト思ヒマス

○吉野信用組合(矢部組長) 唯今ノ委員付託説ニ賛成イタシマス御採決ヲ願ヒマス

○足川信用購買販賣組合(岩井組長) 是ハ委員付託ニナリマシテモ斯ウ大多數デゴザイマシテ御願ヲ知ツタ人モアリマニガ知ラナイ人ノ方ガ多數デゴザイマスカラ互ニ意見ヲ交換シテドウカ委員ニ付託シマセヌデ此全會デ起立ニ間フテ可否ヲ定メテ貰ヒタイト思ヒマス

(一々討議シテ此ノ多數ノ問題ヲ決スルコトハ時間ガ許サナイ難ニ委員付託説ハ頗ブル當ヲ得タ説ト考ヘマスカラ委員付託ノ方ニ賛成イタシマス)御採決ト呼ブ者アリ

○支會長代理(脇本副會長) 委員ニ付託スルト云フ御説ニ御賛成者ガアルヤウデゴザイマスカラ委員付託ニ賛成ノ御方ハ舉手ヲ願ヒタイトゴザイマス

舉手者 多數

○支會長代理(脇本副會長) 多數ト認メマス、ソレデハ委員付託ノコトニ致シマシテ其委員ハ會長ニ於テ指名イタシテ異議ヘゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者多數)

○支會長代理(脇本副會長) ソレデハ會長カラ指名イタシマス、千葉那橋、市原那大和、印旛那布織、長生那一ノ宮、山武那千代田、匝瑛那母子、君津那吉野、安房那大神宮、香取那和協、海上那銚子、此各組合ノ方ニ委員ヲ御願イタシタイト思ヒマスドウカ御承諾ヲ願ヒマス

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○支會長代理(脇本副會長) ソレデハ委員諸君ニ於テ御願ヘノ上更ニ御報告ヲ願フコトニ致シマス、諸君ニ申上

ゲマスルガ唯今日リ加納子爵閣下ノ御講話ガゴザイマスルデ左様御承知ヲ願ヒマス

午前十時五十六分休憩

(加納子爵講話)別ニ掲ク

(帆足支會長挨拶)別ニ掲ク

午後零時三十五分休憩

午後二時八分開會

○支會長(帆足内務部長) ソレデハ是カラ會議ヲ開クコトニ致シマス、午前ノ協議問題、各組合ヨリ出テ居リマスノハ委員付託ニナツテ居リマス、是カラ委員ノ御方ニ一ツ御報告ヲ願ヒマス

(委員長吉野信用組合長矢部八彌君演説ニ着ク)

○委員長(吉野信用組合長) 私ハ委員ノ決定ヲ御報告イタシマス、此第一ノ問題ハ曆年度ニ依リマスルノモ會計年度ニ依リマスルモ是ハ別ニ法令ニ依ツテ規定サレテ居ルト云フ譯デハナシ各組合ノ定款ニ依テ決メルコトガ出來ル問題デアリマスカラ此會ニ於テ決定ヲシテ置カナクツテモ各組合ノ狀況ニ依リ適宜デ宜カラウト云フコトニ決シマシタ、第二ノ問題デゴザイマス、是ハ組合ト致シテハ必要ナ問題デゴザイマス、ケレドモ此問題ハ既ニ中央會ニ於テ研究ニナツテソレトハ請願ノ手續中ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ改メテ決議シテ置ク必要ハナイト云フコトニナリマシタ、第三ノ問題デゴザイマス、是ハ提出者カラ多少訂正ヲサレマシタ、此ノ「町村ニ」ト云フコトヲ「區域内」ト云フコトニ改メラレマシタ、設立セシメザル方針ヲ執ラレムコトヲ其筋ヘ建議スル、斯ウ云フコトニ決定サレマシタ、此産業組合ト云フモノハ自治ノ豫備校ト云フ西洋ノ格言ニナツテ居ル、殊更ニ既股組合内ニ數多ノ組合ガ出來ルト云フハ自治ノ本体ヲ破ルモノデハナイカト云フコトカラ設立セシメナイト云フコトニ建議シヤウト云フコトニ決シマシタ、第四ノ問題ハ別ニ様式ヲ決メヌデモ借入金彙帳ヲ利用シタナラバ出來ルコトデアアル、既ニ縣ノ施行細則ニ於テ作ラレテ居ルコトデアアルシ、定款ニ於テモ決定シ

テ行クコトガ出来ルモノデアリマス。カテ本會ニ於テ決メル必要ハナイト決シマシタ、第五ノ問題ハ是ハ法令上ニ於テ拂込ハ一ケ年ニ全額ヲ拂込ムモ別段止メラレテハ居リマセヌ、是ハ何レニシテモ定款ニ於テ決定スルコトカ出来ル、出資額ニ對シテ算定スルモ或ハ其以外ニ算定スルト云フコトニ決メヤウガ別ニ不公平ヲ生ジナイ限リハ差支ナイ、殊更ニ本會ニ於テ改正ヲシテ置ク必要ハナイト云フコトニ決シマシタ。六ト七トノ問題ハ是ハ誠ニ良イコトデアアルケレドモ地方ノ狀況ニ依ツテ之ヲ一般ニ行ナヘシメルト云フコトハ如何デアルト云フコトデ其地方ノ狀況ニ一任スルト云フコトニ決シマシタ、第八ノ問題ハ是ハドウシテモ本縣ノ支會ニ對シ補助費ヲ要求スルノ必要ヲ認メマシタ。元來精神的ニ地方ノ改良ヲ圖ルベキ産業組合ヲ指導シ組合相互ノ聯絡ヲ圖リ産業經濟ノ發達ヲ獎勵スベキ唯一ノ機關タル支會ニ對シ補助ノ無イト云フコトニ決シマシタ、ソレニ就テハル、故ニ是非トモ縣費ヲ以テ該會ニ補助シ該會ヲシテ充分ニ活動シテ實フト云フコトニ決シマシタ、ソレデ第三更ニ委員會ニ於テ其金額モ一千圓以上ト云フコトニシテ賫ヒタイト云フコトヲ決シマシタ、ソレデ第三項ト第八項ノ建議ヲ致シマスニ就テハ支會ノ役員ニ一任シタイ、斯ウ云フコトニ決シマシタ。此段御報告イタシマス。

○支會長(帆足内務部長) ソレ／＼研究ヲセラレタロトト存シマスガ唯今ノ委員ノ報告ニ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○支會長(帆足内務部長) 別ニ御異議ガゴザイマセヌケレバ此通り決シマシテソレ／＼申請若クハ建議ヲスルコトニ支會ノ役員ノ方ニ於テ取計フコトニ致シマスガ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○支會長(帆足内務部長) ソレデハ委員會ノ決定通りニ決定ヲ致シマシタソレ／＼手續ヲ取運ブコトニ致シマス。是レカラ支會提出ノ協賛問題ヲ難題ニ付シマス。

○番外(渡部理事) 支會ノ提出協賛問題ニ付テ簡單ニ説明シテ置キマセガ、此産業組合聯合會設立ノ必要ハ午前中ニ於キマシテ加納子爵閣下カラ細カナル御講演ガアリマシタカラ私カラ申述ベヌデモ皆サシハ御了解ノコトト考ヘマス、詰リ必要デアルト云フコトハ御分リデアリマスガ、今一ツ申上グテ價キタイトハ統計上ヨリ見マスレバ四十三年度縣下ノ各組合ノ現金ト預金有價証券ノ三種ニ就テドノ位ノ遊金ガ各組合ニ存シテ居ルカト云フコトヲ關ヘマシタラバ九十五組合ニ對シテ六万有餘圓……ト云ソモノエナシテ居リマス之ヲ聯合會ノ組織トナシ其遊金ヲ聯合會ニ預入レタナラバ各組合互ニ有無相通ジ一般ニ便益ヲ得ルコトデアラウト思ヘマス……ソレカラ又購買組合モ孤立シテ居ツテハ購買力モ乏シク隨テ豫期ノ便益ヲ收ムルコトガ出来ナイガ聯合會カニヨリ合同購入ヲ行ヒタナラバ大小ノ組合ハ互ニ利益ガ均霑スルコトニナリ有利ナル効果ヲ見ハシ又販賣組合モ如何ニ生産力ガ進ミ改良ガ行ヘル、トスルモ本縣ノ米ナラ米ヲ共同一致シテ販賣スル力ガ乏シカッタナラハ販賣上ノ効果ヲ實地ノ上ニ就テ收メルコトガ出来ナイカラ販賣上ノ聯合會ヲ圖ルノ必要ガアルノデアリマス、ソレデ信用組合、購買組合、販賣組合、何レモ此聯合組織ガ目下ノ急務デアルト云フコトヲ認メテ居リマス、ソレカラ既設組合ガ活動シタイト云フコトモ支會長カラ御話ガアリマシタカ其活動ノ出來ル方法ト致シテモ此聯合會ガ最モ必要デアルト思フノデアリマス、ソレデ本案ヲ提出シテ設立組織ノ方法ニ關シテ御協議ヲ願フ次第デアリマス。

(「如何ナル産業組合ガ聯合シテモ法令上差支ナイノデスカ」ト呼ブ者アリ)

○番外(渡部理事) 産業組合法ニ於テ認メラレテ居リマス通り、先ヅ本縣ノ大勢カラ申シマスレバ總組合數ノ内百七十一ハ信用組合組織ニナラテ居リマス。カテ先ヅ信用組合ヲ聯合組織ニスルノガ第一ノ必要ト思ヒマス。信用組合ノ聯合會ナラハ購買、販賣組合等ノ各種ノ組合ヲ加入セシムルコトガ出来ルノデアリマス。

○大和信用組合(秦野組合長) 此支會提出ノ協賛案ニ就テハ最早聯合會ヲ組織スルト云フコトハ申スマデモナク午前カラ御話モゴザイマシテ皆サシ御了承ノコトト思ヒマス、聯合會ヲ設立スルト云フニ就テハ至極宜シイコト

トゴザイマス、併ナガラ此問題ニ付キマシテハ調査ヲシマスルト云フコトハ必要ナコトデ一朝一夕ニハ出来ナイ事ト思ヒマス、鄭重ニ調査ヲシテ實ヒタイト思ヒマス、故ニ自分ハ本問題ハ委員付託ニ致シマシテ篤ト取調ベテ本問題ノ進行ヲ圖ル新様ナコトニ致シタイトデアリマス、其委員ノ方モ其煩ヲ省ク爲メニ會長ニ御指名ヲ願ヒマス、委員ノ數モ是亦會長ノ御見込ニ御任セテ致シタイト

○東郷農友信用組合(及川組會長) 唯今大和信用組合ノ動議ニ賛成イタレマス

○支會長(帆足内務部長) 聯合會ノ必要ト云フコトハ固ヨリ認メテ居ルガ此設立、組織ト云フコトニ就テハ種々調査ヲ要スル之ヲ會長指名ノ委員ニ付託シタイト斯ウ云フ動議ガ出マシタノデアリマス、之ニ就テ賛成ガアリマス、諸君ノ御意見ヲ伺ヒマス……別ニ御意見ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者多數)  
○支會長(帆足内務部長) 御異議ガゴザイマセヌケレバ之ヲ委員ニ付託スルコトニ決シマス、其委員ノ數ハ會長ノ見込ニ依ルト云フコトデアリマス、就テハ此問題モ前ノ各組合提出ノ協議問題ヲ付託シマシタ十名ノ委員ノ方ヲ調査委員ト云フコトニ指名イタシタイト思ヒマス、御異議ハアリマセヌカ

- 委員、千葉郡 瓊橋信用購買販賣組合
- 市原郡 大和信用組合
- 印旛郡 布鎌信用組合
- 山武郡 千代田信用購買販賣組合
- 長生郡 一ノ宮信用組合
- 香取郡 和協信用組合
- 海上郡 純子信用組合
- 匝瑳郡 母子信用組合

君津郡 吉野信用組合  
安房郡 太神宮信用組合

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○支會長(帆足内務部長) ソレデハ前ノ委員ノ御方ヲ十名指名スルコトニ致シマス、ソレデハ協議問題ハ總テ終リヲ告ゲマシタ、是カラ農商務省農事試験場ノ技師齋藤萬吉君ノ講話ヲ願フコトニ致シマス

午後二時二十五分休憩

(齋藤技師ノ講話)別ニ掲ク

(櫻田農學士ノ講話)別ニ掲ク

○支會長(帆足内務部長) 今日ハ時間經過シマシタシ豫定ノ日程モ済ミマシタカラ是テ閉會ヲ告グルコトニ致シマス(拍手)

午後四時十分散會

## 五 訓示及講演

支會長 帆 足 準 三 君

私は千葉の産業組合の支會長であります。本會を開きます際に此所に出まして御挨拶を申上げる筈でありましたが、他の一方に教育總長會が開かれて居りまして、文部大臣が臨席されて御訓示がありましたので、遠い此方へ出ますことを得なかつたのであります。誠に御無禮を致しました、是は皆さんへ深く御断りを申上げる次第であります。

今回縣に於て共進會を開かれまするに就て、之を機會に本縣の産業組合聯合大會を開きました所が、斯く多數御賛同下さいまして誠に本會に取つて喜びに堪へぬ次第であります。且つ又中央會よりも副會頭の加納子爵閣下が御臨場の上御講話を下され、尙又矢張り副會頭をして居られます文部大臣小松原閣下が御臨場になる筈になつて居ります。且又他に講師を御派遣下さつて本會の爲めに御講話を下さるさうで、是は中央會に向つて諸君と共に感謝する次第でございます。

本會を開きましたのは申すまでもなく産業組合は經濟上の貧なるもの、即ち經濟上の貧者、弱者を救ふ爲めの方法として、又地方……田舎の改良發達をせしむる方法としては色々ある中でも此産業組合は最も適切なる方法である、是が一番良い方法である。私は信するのである、それ故に數年來種々獎勵を加へて居るのであります。所が殘念な事には最も地方改良上良い所の組合であるにも拘らず、本縣産業組合は全國平均數に達せない誠に僅かな組合數しかなかつたのであります。是は誠に殘念な次第で、どうかせめては全國平均位に達させたいと思ひまして種々獎勵を加へましたが幸ひに諸君の御奮發に依りまして今日に於ては此千葉縣下で百七十四の組合がある様になりました。本年三月末にはまだ百六十で、全國平均數に達して居りませなかつたが今日では確か全國平均數に達して居らうと信じて居るのであります。併ながら他の府縣も大に奮發をして居りますから或は他府縣が本縣の進んだより以上の速力を以て進んで居るかも知れぬ、或は尙平均數以下に居るかも知らぬのであります。

すが現在百七十四の多数になつたのは是は偏に諸君の御奮發に依る次第で誠に縣下の爲めに喜ばしい事であり  
ます、尙此上とも此組合の爲めに御盡力を請ひまして、さうしてどうか此地方の發達をするやうに致したいと  
思ふのであります、故に此組合設立を奨励すると共に一面には既設の組合、是まで出来て居る所の組合の内容を  
改め、益々是が活動して行くやうに措置をしなければならぬ、此活動を期する爲めに色々御協議を申上げる爲め  
に本會を開いたのであります、然るに本縣の組合は尙ほ完全に發達して居るか云ふとどうもさうは云へぬので  
あります、既に百七十四の組合には達して居りますが、此中で經濟上何等の活動もなさず、又活動いたしても法  
律規則に背いたやうな事をした組合がありまして、残念ながら二十二の組合は解散をしたのであります、折角出  
りまして解散をしなければならぬやうな事に立到りましては實に残念な次第でありますから、さうか折角出来  
た以上は十分の活動をして法律規則に背かぬやうに、さうして組合の目的を達するやうに致したい、是が第二の  
目的であるのであります、尙第三の目的としては此組合は益々聯絡結合をして益々活動の力を大ならしむる等の  
聯合會的組織を御相談しやうと思つて本會を開いたのであります、共進會開會中でありまして、それ／＼地方  
からも御出張になる方があると信じて居りますので、折角縣下に御集りになりました以上は共進會の効果を  
益々發揮せしむると共に併せて産業組合もそれ／＼聯合御協議を遂げに行きましたならば、何れも共々に効果あ  
る事と信じます、故に本會を開くことになつた次第であります、さうか中央會より御派遣の講師の講話、並に副  
會頭閣下の御講話とを能くお聴き下さりまして、産業組合自身の目的を達し益々活動せしむることを切に希望す  
る次第でございます、是だけで御挨拶は止めて置きます、

ソレカラ講話をする譯ではありませぬが、先刻來加納子爵閣下より御話のありました通りに餘程お互ひに奮發  
をしなければならぬ時期であるのであります、それに就て茲に一つ御參考になるべき圖がありますから之を此所  
に貼つて置きます、「此時國力比較表を會場に貼付す」跡で能く御覽を願ひ度いと思ふのであります、是は世界各  
國の國力を比較したもので、大きいのは國力が大きいので、一番大きいのは殖民地の廣さを示したものでありま

す、是は英吉利であります、日本の國旗は見へない位ぬ、是れしかない、是は今度朝鮮を日本へ合併になつたの  
で、朝鮮も遁入つて居る、朝鮮、樺太、臺灣、遼東半島も遁入つて尙ほ是ほどしかない……是は輸出入の貿易を  
比較したもので、日本は斯う云ふ所に小さく書いてあるのであります、其次は鐵の産額、石炭の産額、鐵道の延  
長、商船の數、船は日本だけ、露西亞より少し大きい、其他はモウ殆ど見へない位ぬ、斯う云ふ境遇になつて  
居ります、斯の如き經濟上の力を以て到底列國と競争することは出来ぬ、此國をして大に發達せしむるにはど  
うしても大に諸君が奮發をしなければならぬと云ふ事は是でも分るのであります、然るに此産業組合員は、私か  
常に縣下を廻つて御話を致しますが我國民の貯蓄の比較は僅かに一人が二圓六十錢餘りしか有つて居らぬ、産  
業組合員に限つては、産業組合員一人當りの貯蓄平均額は六十圓餘になつて居る、即ち産業組合員たる人の貯蓄  
額は確かに世界列強、大なる力を有つて居る人と肩を列べて少しも耻する事はないのであります、若しも我邦國民  
全部が産業組合員の今日現はして居るだけの効果を現はしたならば、確かに日本の國は列國と比較して少しも耻  
することはない、さうか皆さんの御盡力に依つて全國に組合を多く設置せられ、さうして我邦の發達を圖られるや  
うに切に希望する次第でございます、是は此所に貼つて置きますから御覽を願ひ度うございます、

議事は一先づ休みまして午後から御協議を願ひます、又二時半、若くは三時頃になるか知れませぬが文部大  
臣、即ち小松原副會長が御臨場になり御訓示がある筈でありますからさう御承知を願ひます、

○告森知事閣下訓示

本日をして縣下各産業組合聯合大會開設せらるゝに當り一言諸子に告ぐる處あらんとす念ふに我國經濟界に於ては  
小規模小資本の經營殆んど其の大部を占むるの状況なるを以て之れか發達を期する上に於て特に此種協同組合の  
設立を要する一層切實なるの所幸に諸氏の熱誠なる盡力に依り縣下各郡に於て既に百七十有餘の産業組合を組織  
するを得たるは實に喜ぶべき現象なりとす然りと雖も法は死物にして人に依り活動せらるゝものなれば若し之れ



が當局者にして其人を得ざらんが意外の結果に終ることなしとせず故に是等組合は常に設立の数の多からんよりは寧ろ其の内容の完からんことを期すべきなり然るに既設組合中其の内容の改善を要すべきもの決して尠しきせず業に當るの諸氏宜しく組合を單に經濟機關にのみ偏せしめず進んで意を徳義心の涵養に用お一層組合の改善發達に努むると同時に社會公益上の師表となり將來組織せらるべき組合に對し善良なる指導者たらんことを望む

明治四十四年五月八日

千葉縣知事 告 森 良

産業組合中央會副會頭

文部大臣 小松原英太郎閣下

今日は丁度諸君の御集會の機會に當地に参りまして、此集會に臨んで諸君に御話することの出来る機會を得ましたのは誠に私に取つて喜ぶべきに堪へぬ次第でございます、諸君は本縣共進會の開設の折を機會として産業組合聯合大會を茲に開かれて組合の經營に關する諸般の研究をなされ組合事業の改善發展に資せむとせられる事は、最も機宜に達した事でありまして、組合の爲めに最も満足する所でございます、

近來産業組合の數も時勢の必要に迫られまして、益々其必要を感ずる場合になりまして近年來産業組合數非常に増加いたして參つて居ります、全國に於て産業組合の數は現今で七千八百餘に達して居ります、而して組合員の數は凡そ七十六万人、運轉資本の資金の額が約六千六百餘万円に達して居るのであります、而して組合數の増加は近來に著りまして、餘ほどの速度を加へて参りまして、最近に於ける一ヶ月の増加は百八十餘になつて居ります、毎日全國に於ては六組合づゝ増加いたして居ると云ふ盛況にあるのであります、本縣に於ても組合の設立せられるもの漸次多きを加へまして、現今其數は百七十餘に達して居ります、併ながら是等産業組合の數を以て我邦町村の總數二万二千に比較いたして見ますると尚ほ六割強に達するのであります、即ち尙ほ四割ばかりの町

村の居民は未だ此善良なる制度の恩澤に浴せないのであります、又本縣に於ても産業組合の數は町村數に比較いたして見ますれば、町村數の三百五十に比較して見ますると尙其半數にも達して居ないのであります、故に産業組合が一般の町村に普及いたして全國各町村の居民が此善良なる制度の恩澤に浴する事になりまされるには尙ほ幾多の時日を要するであらうと考へます、併ながら斯く申せばとて徒らに組合數の増加を謀る者ではないのであります、私は諸君と共に組合の事業は社會の風紀を教ふし、又國民の幸福を進め、國家の健全なる發達を遂げに於て此貢獻する所の頗る大なるものである事を確信するのであります、併ながら唯組合數の多きを見て直ちに組合の効果を云ふすることは出来なと思ふのであります、即ち組合の組合たる所以は其内容實質の整ふて、充實いたして整備いたしたものでなければならぬのであります、我邦に於ては産業組合の歴史が尙ほ若いので、多くは設立後日尙ほ淺く致して其成績も十分なりとは云へないのであります、中には優良なる組合があり、随分立派な組合も出来て居りますが、兎に角歴史が新らしい故に泰西諸國の組合の實績に比しますると、なかくまた先進諸國の産業組合には遠く及ばないのであります、即ち其實力の關係に於て、其活動の範圍、分量、又組合員の自助自營の精神、徳義を重んずるの精神に於ても尙ほ遠く泰西諸國の組合には及ばない、故に随分組合の數は澤山出来て居りますが、其内容と云ふ事に至りましては尙ほ改善を要するものが尠からぬのであります、今日は組合を段々整理して参りまして、悪い組合は之を禁じ、若くは矯正改良を加へ段々良くなつて参りつゝあるのであります、併ながら或は借入金を目的として産業組合を造るとか、或は折角産業組合を造つても少數の資産家が多く組合を利用し、小産者の利益は組合に依つて及ばない、或は組合を利用して色々な事をするとか云ふ事が随分ありまして、是等は漸次整理を致して健全に趨きつゝあるものであります、併ながら尙ほ組合に依つては内容の改良を致さなければならぬ、内容の改良を必要とするものが少なくないとか云ふ事は尙ほ免れない、今日であるのであります、即ち故に中央會に於ては地方の支會、若くは地方の各産業組合の理事者たる諸君と共に益々力を盡して組合の内容實質を改善せむことに盡力いたさむければならぬと考へて居る時であるのであります、願くは諸君

の御奮勵に依つて將來一層組合の改善を圖り、組合員の信用の程度に於ても、又組合の資力の點に於ても、事業經營活動の上に於ても泰西先進諸國の産業組合に耻ざる域に速かに達したいと思ふ事を考へるのであります、

扱又昨年來政府は日本勸業銀行を經まして低利資金を組合に融通いたすの道を開いた、即ち中央にある郵便貯金の金を低利で組合に融通し、小資産者の融通に之を供し、地方の産業發達を促すの資に供せむとするのである、本年に於ても亦多額の資金を組合に融通せられる筈になつて居るのであります、其低利の資金を組合に依つて地方に融通し、政府が獎勵すると云ふ趣意は云ふまでもなく我邦經濟の本、經濟の根元とも申して宜しい、國民の多數生産業に従事して居る我が五千有餘万の多數の臣民、中産以下の臣民、其中産以下の臣民の勉勵に依つて、其生産力に依つて國家の生産は發達して居るのである、其中産以下の生産者に低利の資金を供せむとするは産業發達に資せむとするの誠意に出づるに外ならぬのであります、故に折角政府が組合に依つて低利に地方に融通せむとする所の資金が、單り中産以上の人の利益に供せられる如き事がありましたならば、最も切實に願ふ資金の必要を感ずる所の小資産者に其利益が及ばない、斯の如き事がありましたならば、政府が此資金を地方の融通に供する目的は到底達することが出來ない、而已ならず組合も亦其本然の任務を全ふしたものは云へない事になるのであります、故に本縣下の産業組合にあつては其區域内の小産者、小資産者には努めて加入の便宜を與へ、之を加入せしめて組合事業の利益に浴せしむるやうに致したいのであります斯くして國家は地方産業開發助長の爲に低利の資金を供給する所の誠意を空しうせずして國家の生産發達の目的を遂げると云ふことが出來るのであります、此點に就ては深く諸君に御留意を願ひ茲に希望を致して愼み度いと思ふのであります、諸君の御盡力に依つて成るべく最小資産者を組合に加入せしめて、此低利の資金を小資産者の融通に供給することが出來るやうにして、地方産業の發達に資するやうに、而して政府の此低利の資金を地方に融通すること云ふ目的を達する事の出來るやうに諸君の御盡力を願ひ度いと考へる次第であります、

尚ほ茲に一言諸君の御留意を願ひ度いと思ふ事がある、それは即ち産業組合の尊重せられる所以、産業組合が

尊重せられて、國家から特別の取扱ひを受けて居る、特典を與へられて居る所以のものは産業組合なるものは組合員各自の徳義を重んじ、組合員共同の利益の爲めに互ひに力を盡して各自の奮勵努力に依つて銘々恒産を造る、又各自の恒心を養ふて而して國家の生産力の發達を圖る、斯うふ立派な有益な會であるので、斯の如き組合であるが爲めに特に國家よりも、亦社會よりも是は尊重せられる所以であるのであります、それ故に組合員は第一に徳義を重んじ、社會の道徳を維持し、社會の徳風を作興するの機關として卓越せる働きを現はさむければならぬのであります、即ち産業組合なるものは其組織の上から組合員なるものは組合の性質として徳義を重んじなければならぬ、信用を重んじなければならぬ組織になつて居るので、組合員になる者も亦信用徳義を生命として活動して行かなければならぬ事になつて居ります、即ち其組織の模様に依つて自然に國民の徳風を起し、地方の自治を扶翼する上に於て頼る力のある事は云ふまでもない諸君の御承知の通りである、殊に組合員は信用徳義を以て精神を致して居る、組合員たる者は常に此精神、趣旨を奉体して參らぬければならぬ事でありますからして、何れの地方の組合に於ても組合が總會を開くとか、其他集會を催す場合に於ては必ず教育勸語並に戊申詔書の内容を行なつて居ります、而して組合員の道徳を益々健固に對して行くことに銘々心を用ひ力を盡して居る次第であります、或る組合に依りましては立派な人をさう言ふ機会に頼みまして、或は講演を開き、又多數の組合の集まりましたやうな場合には組合員の事業に關する種々の經驗談などを講演いたして益々組合の精神骨髓と致して居る所の趣旨を發揮し、組合員互ひに改良し其實効を收むることに努めて居る次第であります、故に私は斯う信じて居ります、我が産業組合員にして常に組合の精神を体し、組合員たるの本分を盡し、組合をして經濟上勝た社會道徳上に其組合本來の妙用を發揮せしめて參りました時には、單り經濟上に於て競争激甚の餘弊を調和し國家の健全なる發達を補助するに止まらない、又勤儉力行の中心となり、勤儉力行の風を興し、社會の徳風を中心となつて、國民の思想をして益々堅實に健全ならしむるに於て頼る偉大なる力のあるものであると云ふ事を信じて居るのであります、畢竟組合員が能く組合の精神を理解し、之を締認して組合員たるの責任、本分を盡と

云ふ事が即ち此偉大なる力を國家の上に致すことになるのであると信じて居る次第であります、  
 茲に申述べることは長れ多い事でありますが、諸君は御承知の通り我が天皇陛下には本年二月十一日の紀元  
 の佳節に當つて優渥なる勅語を賜はりましたのであります、其勅語の中に、人心の歸向を誤らないやうにするや  
 うに、「業を勤め教を敦ふし以て健全の發達を遂げしむへし」、また「無辜の窮民に對しては施藥給養を致して濟世  
 の道を開くやうに」と云ふ有難い御趣意の御沙汰があつたのであります、即ち産業組合員たる者は曩に申述ぶる  
 が如く此組合を守立て、組合員たるもの各自能く組合の精神を体し、其本分を盡す時には、陛下の御希望になる  
 御趣意に答ふることになるのであります、又此御趣意が徹底する事が出来るのであります、  
 今日には國運の發展を要することの益々急なるの時に當つて國民たるもの益々奮つて各自の産業を勵まし、一方  
 には道徳を重んじ、一方には産業を勵み、所謂恒産を興し恒心を養ふて國家の健全なる發達を遂げなければなら  
 ぬ誠に今日は大切な時期であります、此時に當つて我々産業組合の事に従ふ者は至誠以て組合の事に當  
 つて是非とも此組合を守立つて、健全なる立派な組合に發展するやうに致し、又組合員たる者にあつては互ひに  
 勵み、互ひに戒しめ、各々自助自營、所謂勤儉力行の實を擧げて信用を重んじ、又組合共同の利益を尊重し、産  
 業組合の健全なる發達を圖つて、優渥なる御旨に酬ひ奉らむことを期すると云ふ事は是非とも互ひに契つて  
 致さなければならぬ事であると考へるのであります、我々産業組合員が豫て期して居る所の即ち産業組合の趣  
 旨、精神に隨つて、能く産業組合の精神を發揮するやうに致す事が出来ましたならば、即ち陛下のお望みになる所の御趣意に適  
 が能く誠を盡して組合員たるの本分を盡すことが出来ましたならば、即ち陛下のお望みになる所の御趣意に適  
 ひ、此趣旨を貫徹することが出来ることになる次第であります、故に斯く優渥なる勅語を拜したに就き  
 ましては我々一層奮勵いたして、上は御恩、御旨の優渥なるに答へ、又下は我々の本分を盡して組合の健全なる  
 發達を圖らなければならぬと考へる次第であります、  
 就ては話が長くなりましたので、又冗長に涉りまして能く諸君にお分りになつたかやうであるか甚だ心配いたし

すが、大体はお分りになつた事と考へます、此上はお互ひに奮勵努力して益々産業組合の發達に盡すと云ふ事を  
 以て此話を終りと致します、願はくば眞面目に、誠實に、至誠を以て事に當り熱心を以て、組合の爲めに御盡力  
 になる事を希望いたします(拍手喝采)

産業組合中央會副會頭  
 于野 加納久宣閣下

唯今御紹介になりました私は加納でございます、本日大會を御開きになるに就て私にも何か御話をするやうに  
 と云ふことでありましたけれども、私はトンと長い間の經驗とてもありませぬ、殊更今日は一の宮町より歸京の  
 道筋に寄りまして參觀したる位のお事でございまして何等御話をしやうなご云ふ考へを有つて居りませぬ、  
 此支會よりの御提出の聯合會設立に就ての御案が出て居るやうでありますから、聊さか之に就て必要と認むる趣  
 意を簡單に御話しやうと思ひます、極めて私は老我を致して即か悪うございませぬから御話いたしますのも支離滅  
 裂になりました皆さんに御分りにならない事もあらうとそれのみ甚だ恐縮いたして居ります、やうぞ其點は老我  
 の致す所と御憐恕下さることを希望いたします

信用組合、販賣組合、購買組合、生産組合、斯く組合が出来まして、其上に立つ聯合會なるものが之を統率  
 するにあらざれば逆も十分な効果を奏することの出来ないことと云ふことは是は法律上明らかである、又事實に於て  
 も其通りで、私が喋々申上げる必要もないやうであります、併ながら此設立もやうしても基礎が鞏固でなければ  
 往けない、然らざれば聯合會が設立せられても其働らきを逸しくすることが出来ませぬ、聯合會をして十分の働  
 ちきをさせると云ふには先づ之を組織する所の各組合が健全に發達をしてさうして事業の活動が極めて立派にな  
 つて、此集まりで始めて聯合會と云ふものの働らきが遂げられるのでありますから、さうして此聯合會を設立  
 すると云ふには其要素たる各組合が健全でなければならぬと云ふことは其順序の上に於て明らかである、

扱我邦の各組合と云ふものは何所までも健全であるか、不完全ではないかと云ふことは又餘ほ私は考へるものだらうと思ふので、例へば一つの町村に戸数が一千あるのに組合員は漸く二百か或は三百しか出来て居らない、其併ながら是ても産業組合として法律上認められて居るには違ひない、一箇町村の中に大字が五つ乃至十ある、其の中の一つ二つ出来て居つてもうれでも産業組合と認められるには違ひない、去りなかう斯の如き一部分、一町村の戸数の中漸く三分の一か五分の一しかないやうな組合、うでも果して産業組合の目的を達し得たものであらうか、是等は能く考へて見なければならぬ問題だと思ひます、兎に角銀行の如く此の信用組合も一種の金融機関として、生活機關として成立つた一つの銀行會社のやうに、道人りたい者は勝手次第に道人れ、道人りたくない者は道人るに及ばない、斯う云ふやうに其希望の自由に任して道人りたい者のみでやつて居ればそれで宜いものだらうと云ふことは、此産業組合が苟も町村自治を鞏固にせむ爲に必要なるものであると致したならば、丁度銀行の株主となるが如く餘々の自由思想に任して道人りたい者は道人り、道人りたくない者は道人らなくとも宜いと云ふやうなものではどうしても無いだらうと思ふ、是は國家的に關係して居るからにはどうしても町村全部、其組合員になると云ふことは組合の組織に就て必要であらうと思ひます、若しも此組合をして町村の三分の一、或は四分の一に過ぎないやうな少部分でありますれば連も町村の金融機関として或は町村の經濟機關として十分の働きをなすと云ふことが出来ないのであるならす町村自治の基礎を鞏固にして進歩發展を圖ると云ふことは困難であつて到底不可能なものであると云はなければならぬと思ふのであります、左様な事でございますと、今日の産業組合一体の状況から申しますと、町村民全体が即ち其信用組合員であるか或は産業組合員であるかと云ふと、唯其内の三分の一乃至四分の一しか道人つて居ない、又或は字に就て組合の組織があるか、或は字に就て全然其んなものは無い、さう云ふやうなことで一の町村は殆ど半身不隨と云ふやうな生活をなして居つて、全体の町村の身軀の上にて健全なりと云ふことの出来ないと云ふのが九分九厘位で居るやうに思ひますから、是は聯合會なるものを組織すると同時に、之を組織する所の要素たる町村の産業組合が其は健全なる進歩發展を

圖るが爲めに町村全体の人民が全く此組合の爲に盡力をして互ひに奮發をし各々産業組合が進歩發展して行くべきことは最も必要であらうと思ふのであります、町村全体の加入と一部分の加入とは、加はらぬ者は全然補償を感じないやうであるけれども、既に加入をして此の組合の爲に經費を出し、又組合の利益を進めて行くこと云ふ方の側から申しますと、十人の組合より二十人の組合であれば其經費の負担も半ばを以て足る、一人前十錢づゝの費用を以て一つの組合の經費を支へて居るものとすれば十人にして一圓の負担をしなければならぬ、若し之を二十人とすれば五圓の負担をすれば一圓の雜費を償ふものであるから多くなれば多くなる程、多々益々組合の雜費が減る、さうして生産的に働らくと云ふことが愈よ多きを加へて來るのでありますから、町村全体の加入と一部分の加入とに於ては此組合員自身の利害にも非常な差が出て参りますから、さうして是は經濟の上からしても全部の加入と云ふことは餘ほ必要である、又此加入は各自の不利の爲めにするにあらずして、利益の爲め加入するの邊くべからざることたるは言ふまでもないのであります、それは今日までの社會の有様で中流以下の人達に對する金融機關と云ふものは有るか無いかと申しますならば全く無いのであります、中流以上の機關たるものは即ち銀行であるが、中流以下の者に對する金融機關が缺けて居るのである、銀行を組織すべき人達が此銀行の金融機關の無き場合に於ける不自由と、それから中流以下の者が金融機關が無くて其金に不自由するものとは何れが不自由の傾きが多いかと云ひますと、さうしても金に不自由なき者が金融機關を有つて居らぬよりも、自分が金に不自由して金融機關の缺けて居る者の方が餘ほ多いものであると云はなければならぬ、然るに今日上流界に立つて居る者は金融機關の銀行を有つて居るが其以下の中流以下の生活をなして居る所の人達には古來金融の機關が缺けて居る、今まで金融機關となるべきものは何であるかと云ひますれば、詰り地方で所謂、地主、或は頼母子講或は高利貸、さう云ふものに依つて僅かに臨時の必要を充して居つたと云ふ有様であつて、從來は此金融機關は無いからして別段不自由を感ずると云ふこともなかつたでありませうが、既に産業組合法が出来、中流以下に對する是が國民の銀行である、國民の銀行として低利長期、無担保と云ふやうな組織を

以て事業を經營するとしては、尙上流界に於ける金融機關たる銀行營業よりも尙一層便利を以て金融を達し得られるのでありますから、無論各自の幸福を進める上に於ても避くべからざる是が機關に違ひないと思ふと、之を以て導入るのは是だとか不便だとか云ふ如き説はどうしても出ない勘定であるけれども、兎角組合に導入るに就ては、従来の歴史として或は頼母子講であるとか或は貯蓄をして役場に預けるとか云ふて、從來此金圓に對する取扱ひ方の歴史が効を奏さない、利益を得たと云ふことの歴史が甚だ乏しくて常に失敗に終つたと云ふ歴史を何日も繰返して居るやうなことに懲りて、産業組合の如き事業をば、尙は従来の頼母子講、無商講や高利貨の權化の如くに考へて居るが爲に加入を嫌ふ人が多いと云ふ場合も或は已むを得ぬと云ふて宜いかも知れない、兎に角此産業組合法が出来た以上、産業組合として必ず町村全体に之に加はらなければならぬと云ふことは、我々其組合員たるものの方針として、又組合の役員たる者が常に此方針を失はないやうにしなければならぬ、一字位おのことで逆も事業を經營して完全に往けるものではないと云ふことは當然である、又一町村全体之に導入らずして十分の一、二十分の一位おの加入者を以て事業を完全に實行して行くことは出来ないと云ふのも當然である、又幸福と云ふ上に就て見ても少數の者の幸福は全体の幸福に進めなければ町村の幸福として見ることは出来ないやうなことで、斯う云ふやうな既に基礎の上に就ての組合の状況でなければ、即ち此聯合會を組織するにも町村の産業組合が健全であれば聯合會の設立も随つて不健全なることは免れない、故に各組合が健全を保つと云ふことに十分力を盡さなければならぬと思ふ、併しまた其組合が十分に發達をしないからまた聯合會を組織するのは早いだらうと云ふ斯う云ふやうな説をなす人もある、私をして云はしめればさうではない、此聯合會があるが爲めに不健全なる各産業組合の事業を發達させ、其事業をして愈々擴張させることにもなるのである、又各産業組合が多少他の進歩發達を説ふが爲めに随つて聯合會の事業と云ふものも益々發展し來るのでありますから、聯合會で此産業組合が互ひに相俟ち相寄つて而して進歩發達を圖ることが出来るのでありますから、各産業組合が發達して居らないから聯合會まで設立せぬ方が宜からうと云ふ如き事でありましたれば何日までも此進歩發達は

期することが出来ないので、到底不可能の事であると云はなければならぬ、さうして見ると産業組合は聯合會を組織してさうして又自己の發達と進歩を圖り、又聯合會は各産業組合の業務をして進歩發達をなさしむる上に就て必要な事業を實行して相互の進歩發達を圖ることが出来る、相互ひに助けて行かなければならぬものであらうと私は考へるのであります、丁度此の各産業組合は其町村の人民、即ち町村民の個人の仕事をば一つに集めてさうして一つの組合の事業として取扱つて行くこと云ふのが産業組合法の精神であると仮定しますれば逆も世の中は獨歩孤立で以て涉れるものではない、少なくとも人と集まり、又多少の財産を集めてさうして其財産を以て互ひに相經營し互に相保持して行つて今日の幸福を進めると云ふことは避くべからざる是が當然の仕事であるとするからには、即ち今の産業組合法に依つて個々の力をば一つに集めて一つの組合が出来ると云ふ事が避くべからざる必要でありますと共に、今度は産業組合法を以て各町村に設立せしめ、それで獨歩孤立で外の組合と聯絡をしようと云ふ事が無い、一致することがないと思ふと、さうすれば詰り世の中は獨歩孤立では涉れない、一人の獨歩孤立では往けない、産業組合なるものも一致を圖ると云ふことが必要であるのに、出来上つた産業組合が各孤立で以て互ひの聯絡が無かつたならば、丁度銘々が一人一人で所謂獨歩孤立で世の中を渡つて行かうと云ふ事と同じであつて、唯集合体の獨歩孤立である、一人の獨歩孤立と違ふばかりで獨歩孤立と云ふ點に於ては同一である、唯一町村だけが集合して居る、他の町村と聯絡が取れないと云ふのでは孤立と云ふ點に於ては、多數の孤立と一人の孤立との違ひあるのみで孤立と云ふ事に於ては同一である、互ひに便利を得、保護を得るやうにするにはどうしても産業組合の必要を認めて既に造つた以上には之を一つに纏めて聯合の力を形造らなければならぬと云ふ事は明らかであります。

それからモウ一つ事業の上から御話をしますると、一つの購買組合なら購買組合で御話をしますと、例へば肥料の共同購入、一つの組合が百圓の肥料を購入すると仮定しますと、僅か百圓が其所等の備下金では逆も大割引をさして購入すると云ふことは出来ませぬ、若しも是が百の組合が集つて肥料の共同購入をやると、同じ種類

の肥料であつて、同じ期間に施すものとしたならば、即ち百人一致したならば一萬圓の金が集まるに違ひない、其一万圓の金で肥料を買ふのと百圓の金で肥料を買ふのと何れが安く買へるか云ふと、百圓位では肥料會社でも大抵支拂ひで送る十分な割引をして呉れる氣遣いはない、一万圓の肥料を買ふとなりませすれば必ず多少の割引もするし、運賃も多少經濟になる、是は間違ひなく出来るに相違ない、さうして見ると一の組合で少々の資金を以て肥料の共同購入をやるより多數の組合が相一致して、さうして餘りが支出すべき所の金額を集めて一万圓に纏めて其金で肥料の共同購入をしますれば其利益の大なることは、獨歩孤立で百圓を買ふより一方圓に纏めて買ふ方が運賃に於て品質の上に於て、金額の上に於て非常の差が出るものであると云ふことは言はれるであらうと思ふのであります、それは單に肥料の共同購入のみならず、總ての點に於て左様な差があるのではありませんから、さうしても各組合の出来た以上各聯合統一の出来る組合でなければ送る十分な進歩發達を圖る云ふことは出来ぬものと思ふ、それは共同購入に就てあるが、例へば借用組合であつても聯合の必要なることは分る、或る地方で金を借りやうと思ふが其所には銀行が建つて居らぬと云ふ不自由な土地もある、他から金を借りやうとすれば利息が非常に高い、又農工銀行から借りるやうな道は開いては居るけれどもなかり其手續も困難である、所で或る組合では金が無く困つて居る、或る組合では金が剩つて居る、斯う云ふ場合に聯合が出来て居れば是等の有無相通することも出来る、必要のない所から必要に迫つて居る所へ馳せ馳せ出来るのである、是等の便利は聯合會の組織に依つて得ることも出来る斯う云ふやうな事でもございまして此聯合會と云ふものは産業組合を造つた以上、既に獨歩孤立で往かないと云ふ以上聯合會を造らなければならぬと云ふ事は無論であると思ひます、私は一部内のみならず進んで千葉縣全体の聯合を形造ると云ふことが必要である、又千葉縣全体の聯合ばかりでは事足りない日本帝國全体の大聯合を形造らなければ此聯合の本体が完全を得たものと云ふことは出来ないのであります、細かい方から申せば一町村内の産業組合には必ず其町村全体の人が進入すると云ふことは勿論であつて而して各縣の上に於ても十分に力を進めなければならぬ、一町村の健全なる

産業組合が形造られてから後に一村に及ばし一部若しくは一縣の聯合會となり、進んで他府縣の聯合會を形造るやうになつて自治の働らきをなすべき聯絡も付いて来る、斯う云ふやうにして一組合に止まらずして各組合と聯絡を取つて他の府縣と聯合會を造つて系統的に組織すると云ふことにならねば産業組合法に書いてある所の精神と相一致すると云ふことは出来ませぬ、又必ずしも健全なることを得ないだらうと思ひます、さうしても聯合會を組織すると同時に組織する其組合其ものも不完全であれば其聯合會も不完全なものになりますから其各組合も完全なものにして行かなければならぬのであります、所で東京府の聯合會の如きも其だ聯合の効果と云ふものも少ないのである、此聯合會の事業の一つとして肥料の共同購入と云ふことをやります、東京府下の會員も他の府縣と共同して、追々擴張され廣く同意を得て此共同購入をしますのであります、東京府下の聯合會が他の府縣と共同して購入すると云ふことになれば聯合會の爲めに非常の利益を得る、聯合會の精神も其所にある、東京府下の如き産業組合員が五百俵千俵の肥料の共同購入を申込みました所が送るさう大割引をする氣遣いもない、却つて個人の手で肥料を買収する方が餘ほお廉いのであつて寧ろ聯合會へ出すと云ふのが手數損になつて仕舞ふのである、然るに若しも是が五縣六縣十縣十五六縣と各府縣聯合して肥料の共同購入をするると云ふ場合に成りますれば、其數も僅かに一の産業組合であれば五十俵か百俵位に過ぎませぬけれども、多くの申込を集めれば三万俵五万俵にも上るのであります、五俵十俵の小賣であればさう價を廉くする氣遣いはないが、五万六万と云ふ數に上れば肥料會社も必ず相當の割引もするし、買ふ方でも掛合ふことが出来る、其利益は五俵十俵の小口の者にも及ぼすことが出来るのであります、肥料の共同購入の利益と云ふ一つの例であります、東京府の産業組合の如きは甚だ働らきが鈍いのであるけれども併ながら追々此聯合の實が舉り共同購入の如き聯合會の業務が發達して來れば其利益も多くなつて來る事と考へます、それで前に申した通り各産業組合も獨歩孤立ではさうして往かない、一府より一部に及ばしられより一縣の聯合となり又他府縣と聯合を圖り、聯合會同志で相互に氣風を通じさうして事業の進行をして行かなければならぬと思ひます、一つ位はの産業組合が出来たらと云つてき

れで自治の目的を達するも云ふ事は出来な、僅か一つの信用組合が百圓の資本がある、是だけの力がある云つた所で、それのみで以て日本全国の町村皆力があると云ふことは出来な、例へば常陸山、梅ヶ谷は強い力がある、強いと云つた所で、日本全国五千万の人間が皆強いと云ふ譯ではない、常陸山梅ヶ谷が強いからと云つて日本帝國五千万の人間が大力無双であると云ふことは言へないのであります、竹内宿禰は三百餘歳の長壽を保つたと云ふのであります、之を以て日本國民の壽命は竹内宿禰の如き長いものであると云ふ事は聞へない、今までに一人や二人さう云ふ長壽を保つ人があつたとした所でそれは少數の人である、其少數を以て多數の者を律することは出来な、産業組合の如きも一つ二つの組合の力があつた所でそれを以て全國の町村皆力ありとする事は出来な、全國一万二千の町村が皆残らず進歩發達をして始めて日本全体の國力を増すと云ふことになるのであります、若し一万二千の町村が皆發達をせずして其中の一町村が如何に進歩をして見た所が跡の多數の町村の組合が不健全にしてゴロ付いて居たならば、竹内宿禰が三百餘歳の長壽を保つた所で、それだけで以て國民が皆長壽であると云ふことは聞へないと同じで、日本の國力を増し自治の實を果せたと云ふことは出来ないのであります、私は斯う云ふ事は一般的の仕事でなければ往けない、個人の仕事を以ては宜くない、此の産業組合の如きは總ての力を一致せしめなければ役に立たないのであります、其町村のみの發達を期すると云ふのみでは逆も往けない、それ／＼各町村皆一致して各々進歩發達を圖ると云ふことにならなければ往けないものであらうと思ふ、我々の村方に致しても三万四万の金があるものと致して各町村皆同一に進歩して行くと假定して勘定して見ると兎に角四億以上の金は生産的に働かざるを居ると云ふことになる、随分日本帝國の富はエライものになるであらうと思ふのであります、斯の如く聯合會と云ふものも一つの府縣聯合に止まらずして全國大聯合を形造らなければならぬのであります、此聯合會の本となるべき各産業組合が不完全であれば聯合會も不完全である、それで産業組合の如きは一般的に全体の町村民が其組合を組織すると云ふことが最も必要なるものである、斯う云ふ事を私は希望するのであります、そこで此産業組合の目的と云ふものは金融機關も金の貸出し、低利に貸出す、

又無担保で貸出す、長い間貸出す、それだけは信用組合であるが、其機關は各町村に出来ればそれで此産業組合の目的を達せられるかと云ふと決してさうではない、金融機關ばかりではない、日常生活に必要な品物を低く供給する、此二つの機關が備はつて始めて産業組合の目的を完ふことが出来る、金融機關が出来て金を貸す時に廣く貸す、担保もなしで貸すことが出来る、今までは高利で五割三割のオドリを取られたことから考へて見ると利息の上のみに於ても廣く借りられる、是も信用組合のお蔭であるが、其他に日常の生活品、米にせよ炭にせよ薪にせよ煙草にせよ砂糖にせよ總ての買物が、中流以上の者の買ふ品物と中流以下の極めて小農とも云ふべき者の買ふ品物とは値段に於て違ふ、小農とも云ふべき貧乏人の方が金持が買ふよりも高く買つて居る、是は皆さんに度々御話をして居りますが、チヨット鉛筆を買ふ、一打二十錢であるから一本が一錢六厘餘に當ります、それで一本鉛筆を買ふとなれば二錢である、一本二錢であるから一打十二本買ふのには二十四錢持つて行くこと云ふのであるが一打買ふとなれば一本一錢六厘の割で一打二十錢で買ふことが出来る、金持は一打買ふことは格別困難とは思はないけれども中流以下の者は一時に二十錢の金を出して一本の鉛筆が必要の爲に十二本買ふと云ふのも困難であるから高いと知りつゝ二錢出して一本の鉛筆を買ふのである、總てがそれであつて例へば石油に致しても一箱買ふのと、一つのランプに一ぱつと云ふて買ふのとは値段が違ふ、少しづつ買ふ方が比較的高いと云ふ事は申すまでもない話であります、さうして見ると彼等の生活は常に我々より少なくとも二割以上の高い生活をして居るに違ひない、折角金融機關が出来ても、廉い利息で金を借出して一方生活の上にて中流以下の者は金持よりも二割以上の高い生活をして行くこと云ふことになれば、中流以下の者は段々能く上流の方に向の上し進歩して行くこと云ふことは出来な、貧乏人は益々貧乏し金持は益々金持となり、貧富の懸隔が甚だしくなつて共産黨、社會黨など云ふ思ひべきものが現はれて來ないとも限らぬ此貧富の懸隔も成るべく無いやうになりさうして互ひに進んで行くこと云ふ社會組織にならなければ日本帝國萬歳と云ふことは出来な、それ／＼と思ひます、金持が貧乏しと云ふのではない、貧富を一にするに云ふ意味ではない、金持は益々發達して、中流社會は

今進歩しつゝある速力よりモツと早き速力を以てさうして向上發展をして行く斯う云ふやうに我邦を進めて行かなければならぬと思ふのであります、さうするには今云ふ通り金融機關を完全ならしめて低利にして長期に且つ無担保で金を貸し、今までは非常な高利で苦しめられ、少しばかりの担保を以て金を借りたのが其時期が来て遂に其担保は巻上げられて仕舞ふと云ふ如き事があつたのが、之に依つて全く防ぐことが出来て来るであらう又生活の上に於ても金持と貧乏人と同じ苦しみ方をするならば兎に角、我々鉛筆を一本一錢六厘で買へるものを彼等は二錢づゝで買つて居ると云ふやうな生活の有様ではどう働いて居つても中流以下の者は如何なる日を俟て向上發展し目出度き終りを見る事が出来るかどうかと云ふことは餘ほ皆さんが頭に置いて是は考ふべき問題であらうと思ふのであります、斯の如き問題に到着して来る以上は之を救ふには即ち購買組合を以て成るべく生活の費用を廉くして即ち廉く物を買入れて廉く消費者に頒つ即ち金持が品物を買ふのと同一の値段で買へるやうにして一方救済の途を設け一方に金を借りると云ふ機關が付いて此二つが満足に行はれることになつて此産業組合の目的を達することが出来るさうすればさうしても皆さんは信用組合ばかりでなく購買組合を設立し併行して行くこと云ふことに十分力を盡さなければならぬと云ふことになるであらうと思ひます、而して購買組合信用組合に依つて金融の機關を得る、それから生活をするに就て必要な金の融通は勿論日用品を廉く消費することが出来る、是等の必要は金持にはう程必要でない、貧乏人中流以下の者のみに必要であると云ふので上流社會の人にはさう頭に必要を感じて居らないかと思ふ、併ながら若しも是は貧乏人のやる仕事であつて其んな事に關係するには及ばないと云ふ考へを有つて居られるならば殆ど金持は安心して居られぬ不安の境遇に居ると云ふことになるので宜しく是は金持が……と云ふ今日は悪い知識が、兎に角身分の高い人が身分の比較的低い人達の幸福を圖り利便を興へてやると云ふ爲めに最も力を盡してやると云ふのが當然の務めであつて事ろろれが上流界自身の利益である、此の貧富の懸隔が甚だしくなつて貧乏人が多くなる、犯罪者も殖へる、社會に事故も出来て来る時には誰が國家の費用を除計負担しなければならぬが、悪い事をした奴は監獄へ這入る、監獄の費用は政府が拂つ

て呉れる、我々は一向關係がないがと云ふと決してさうではない、悪人の費用も皆國民が拂はなければならぬ、是は皆さん御存じの通りの次第である、さうして段々此社會が悪い方へ變つて来たならば雄旗を押し立て一番先きに金持を殺して仕舞へと云ふやうな共產黨、社會黨の如き不祥の者も起らぬとも限らぬ、さう云ふ者の起らざるやう、さう云ふ者の本を絶つて、左様なバックリアの生じないやうに努めなければならぬのは固よりの事である、即ち身分のある人、又上流に立つ金のある人は須らく自己の子孫の繁榮を圖る爲め、自己の財産を保全するが爲め、幸福を奪はれざるやう維持するが爲めに宜しく中流以下の人の爲めに成るべく生活状態を安からしめるやう、進歩發展せしめるやうに努めなければならぬと云ふ事に立至るのであります、此中流以下に於て斯う云ふ實例もあるのであります、今年人から借り車をして齒代を拂つて車を挽いて居た者が此信用組合に這入つて金融の便利を得て、三年と云ふ長期の間廉い利息で融通して貰つたため、來年は幾分づゝ稼いだ中から齒代を差引かれると云ふこともなくなり自分で車を持たしたので大きに樂になつた、のみならず今度は自分が齒代を取るやうになつたと云ふ實例もある、同じ労働をして居ても一昨年よりは昨年は樂になり、今年は何生活が樂になつた、是も信用組合の爲めである、斯う云ふ風に中流以下から上流の生活状態に歩一歩と向上し發展して行くと云ふ社會組織にならなければ往かぬので、さうなりますると今まで一般の上流界で例へば十人で一人前百圓づゝの税を納めて千圓の税額になつて居ると仮定しましたならば、其仲間一人加はつた、下流から中流に進み、中流から上流に漸次上の方へ昇つて行く、而して上流が一人殖へて十一人となる、さうすると一人で九十圓で事が済むことになる、それが二人殖へたとすれば千圓を十二人で負担するやうになればモツと一人の負担が少なくなる譯である、千圓の負担が千百圓になつてもさう負担は多くならない、人の頭數が殖へれば負担は段々少なくなる、斯くして進歩發展の實が始めて擧るのであります、即ち上流界は下流界の爲めに此産業組合の世話をしてやるのは寧ろ自家の利益である、若し是が反對に十人で千圓の租税、一人百圓納めて居たのが一人飲ける、一人破産をした爲めに減つた、中流へ落ちた、さうなれば上流界は九人で以て千圓の税を出さなければならぬ、少なくなるとも一



人前十圓幾らと云ふものは増殖しなければならぬことになる、上流から中流に落ち、中流から下流に落ちて来る、國家は表面先きへ——と進んで居る、十九世紀二十世紀二十一世紀と殆ど文明の進歩は止む時がない、けれども國家の實力はどうかと云ふたならば段々金持の数が一人減り二人減り、中流の頭数が一人減り二人減り、又反對に犯罪者が一人殖へ二人殖へると云ふ事になつて貧富の懸隔が甚だしくなれば一面には憎むべき彼の幸徳秋水の如き者が出て来ないとも限らぬ、國の進歩を圖ると同時に右等の事を防ぐには今申した通り成るべく中流以下の生活を困難ならしめず、さうして上の方へ——を進めて行く、其事業としては購買販賣組合、信用組合、此二つが町村の生活に於る必要なる基礎となるのでありますから諸君は十分力を盡して、我々も其關係は免れない諸君の爲めに力を盡す積りでは居るが、諸君自らも務めて其事に當り敢て他人の力を藉りるまでもない、各組合互ひに聯絡を通じ、獨歩孤立でやると云ふのは大きな間違ひで、多數組合の方が集つて一致共同して進歩發達を圖らなければならぬものであらうと思ふ、併し社會は單調なものではない、如何に信用組合が國家唯一の機關とは云ひますけれども、是のみに從事して居れば宜いと云ふ譯ではない、例へば樂隊は大喇叭、小喇叭、笛などが集つて始めて樂隊となる、如何に立派であつても喇叭のみでは樂隊にはならぬ、それと同じで信用組合があるから宜いと云ふ譯ではない、信用組合も社會に於て必要なるものであるけれども此日本帝國の町村には信用組合ばかりでは十分でない、青年團と云ふ未だた互ひに公民權を有して居らざるまた息子株と云ふものに就ても其精神を養はなければならぬ、其息子株、此青年となるべきまでのモウ一つ元は小學教育を十分にやらなければならぬ、併ながら小學教育と云ふものは丁度苗代田みたやうなもので、苗代さへ能く出来ればそれを本田に植付ける害虫も取らない、肥料も十分にやらない本田に植なくつても宜いと云ふならば苗代で金を費へしたのは何の役にも立たない、苗代に金を使ひ其苗代の稻を伐つてさうして本田に植付ければならぬ、本田に植付られるのは何者だと云ふと即ち小學教育を終つて而して後に始めて本田に植付られるのが青年である、其青年諸君は他日我帝國の公民權を有する臣民となり十分なる收穫を得なければならぬ、苗代より本田に行く青年者は十分に肥料をや

り密着の聯絡もやり排水灌溉もやる、即ち完全なる教育を施して始めて公民權を有する國民となる、現代の青年者は即ち後代の帝國臣民となるのであつて現代の國民より尙一層立派なる國民とならなければならぬ、又現代の國民現代の親父株の者は未來の帝國臣民たる者を養成して行かなければならぬ大義務を有して居るのであるから、此青年の養成と云ふ事も町村と云ふものを組織する上に於て避くべからざる是は肝要な務めだと云はなければならぬ、所が私は甚だ遺憾に思ふのは苗代きりで終つて居る、苗代反別即ち小學教育を受ける所のは五百万ある、而してそれが本田に植付けられる即ち中等教育を受ける學生は漸く五十五万人位まで一割しか本田へ植付けられない跡は皆苗代きりで終つて仕舞ふ、十人の中九人は苗代で終つて仕舞ふ譯である、一生懸命國民教育を施してやつても半分以上は無駄になつて仕舞ふ、誠に勿体ない話で、それでは往けない、折角立派な苗代を造つて種も播み、恰も立派な小學校を建て、それには種を蒔いて出来た、田に移植しても差支ないまでになつて来たのを、親の膝許に投り出して、さうして中等教育さへも受けずに不來なる家庭の練習位をさせてさうして兵隊に出て歸つて来る、家畜を相續しなければならぬ、斯う云ふやうにして本田に移植すると云ふのは抜きにして仕舞ふ、到る所此苗代小學と云ふことは今もやつて居る、其んな事では私は社會の組織と云ふものは決して完全なりと云ふことは出来ない、不完全極まるものと云はなければならぬ、即ち私は我が帝國の産業組合が幾ら立派に進んで居つても一方に又之を取扱ふ人間が、それ自身が甚だ不十分であつたならば日本の産業組合は果して理想的の進歩を見る事を得るや否や大に疑念を生ぜざるを得ない、我々産業組合の發達を希望すると同時に之を取扱ふ所の人間に急よ良い人が出来て、さうして我々の思ひ到らざる所の新工夫なり又考へを盡した所の事業の便利等を圖つて呉れて、我々が取扱ふ信用組合よりヨリ以上良き信用組合を他日造られることを望むのである、信用組合其ものが發達するにあらずして信用組合を發達せしむるものは誰であるかと云ふ人間である、それを取扱ふ所の人間は未來の國民である所の今日の青年である、即ち此青年に依つて我々が今日取扱つて居る信用組合よりヨリ以上良き信用組合を造られるのであるから、詰り現代の青年養成は即ち産業組合の發達を圖る水盛の

根本の策である斯う私は思ふから其所へ持つて行つて今御話をしたやうに五百万の小學教育を受けて中等教育まで行くものは僅かに五十五万しかない、苗代に栽培せられたる九割と云ふものは多少は枯れて仕舞ふものもあるし、智識が消滅して仕前ふと云ふ事があるかも知れない、さう云ふやうな事であつたならば社會は逆も十分の發達を希望すると云ふ譯には往かない、それをするには即ち青年者から此信用組合の積古をさせて行かなければならぬと云ふ私の議論で、親父が何たが分らないが信用組合へ遣入れば宜いと云つて遣入つたから私も遣入ると云ふ其んな頭で第二の國民が遣入つて、其人が無經驗にして又十分に趣意目的を知らないやうな人であつたならば逆も進歩を期する事は出来ませぬから我々が今日やつて居る位おの事は青年時代に積古をさせて置かなければ往けないだらうと私は思ふ、さう思ふて居るばかりではありませぬ、我々の郷里の青年團體に對しても一の矢張り積古道具としてやらせて居る、信用組合の青年が經濟の雛形的に取扱つて居る、一の積古道具として青年時代にはだけの研究をさせておれば此研究が後に親の家督を相続する、親父が信用組合員であつたから自分は卒先して直ぐに組合員の跡を相続する、十分青年時代に積古が積んで居るから信用組合なるもの趣意目的と云ふ點に就て曖昧と云ふ如き事なく信用組合員が立派に其組合をして發達させて行くことも出来る譯になります、例へば簿記なども昔の大帳帳の帳簿では往けない一目して分るやうに當時の簿記法に依る、所が此簿記法は一般に知られて居られないけれども青年會の如き今から育て、本田に植付ける場合に屬して居るのであるから帳簿の積古などもさせる、随分銀行などで簿記を教つて貰つて、それを信用組合に應用して、出資金が幾ら、貸金が幾ら、豚を幾ら買つた、鶏の卵を幾ら買つた、其んな事まで皆簿記法に依つて記入させることも出来る、或は貸借對照表を造つて見るとか、其んな事まで青年時代に於て熟練をさせて置く、さうしたならば始めて第二の國民となつた時に十分必要な研究を遂げて置いたならば生存競争場裡に立つて連戦連勝の名譽を博することも出来る、苗代きりで本田に植付けられるものがない、それでは逆も生存競争場裡の積古を立つて十分に活動することも出来ない、多くは失敗に終ると云ふも無理のない話である、要するに此青年の養成を云ふことであるが、若しも以上御話し

た事が日本の町村に於て出来る事になつたならば必ず町村は進んで行くに違いないと私は思ふので、其内に就て我々はどの方面に一意専心盡すかと云ふと詰り産業組合、信用組合、購買組合、何れも經驗のある人が宜しく此組合に力を添へて生活上成るべく上流の者に比して下流の者の生活費用を安く物品を買入れられるやうにしてさうして生活難の歎聲を發せしめざるやうにする事が最も必要な事であらうと思ふ、斯の如くして始めて我帝國の進歩發達を期することが出来るのでありますから、其内の一つを欲くと人間で云へば半身不隨、右の手が働いて左の手が働かない、それでは逆も往かせぬ、全身満足に働らなければ身体健康無病と云ふ事は出来ない、今日では苗代きりで終つて仕舞ふ者が多い、本田に植付けられる者が一割しかない、指先は働いても全身が利かない、殆ど半身不隨である、此社會の爲めに信用組合購買組合があつてもそれを取扱ふ所の人間が完全に以て相當力のある者でなければ其組合をして有効ならしむる事が出来ない、即ち今日は半身不隨の大患に町村が罹つて居るものと斷言して憚らない、是ではさうも往かせぬ、今日は日本も大陸的の帝國となつたからにはお互ひに餘は働らかなければならない、決して島帝國の臣民どころではない、世界の間立つて大陸的帝國の臣民となり世界の競争場裡に立つ以上は大に奮發をしなければならぬ、今まで一貫目の物を持つた者は一貫五百目のものを持たなければならぬと云ふやうにお互ひに奮勵しなければならぬ事と思ふ

私は昨夜遅くまで起きて居つて今朝も亦早く起きましたので頭が非常に悪く何をお話して宜いかと云ふ事も、甚だ支離滅裂で一向纏まらない話であつて無駄に時間を潰したのは恐縮に堪へませぬ、さうぞ是は老衰の上之餘り昨夜遅くまで起きて居て今朝早く起きて頭を悪くして居る結果と云ふ事を以て幸ひに御宥恕あらむ事を希望いたします(拍手喝采)

私は折々こちらへ出ますので申上げる事はいつも切り切つたやうな事でございます併し外の人様も見へて居りますので出ると云へば出なければならぬ役目でございます暫らくの間御話を致します、

産業組合の事は私はトンとハハ不馴れでございます、自分で其事は扱つたことがございませぬ、ボツリとやつて居る所の様子を見ますに、産業組合の事を奨励し又指導して其局に當る人の凡ろ氣持は茲等ではあるまいかと云ふ事を分らぬながら讀取つたわけを申上げます

先づ第一に簡略にします事、餘り臆劫にしない、誠に手易くする、例へば帳面を記ける、簿記法で斯うしろ、登記を願ふには斯うしなければならぬ、なか／＼それはむづかしい、實は今日の産業組合の規則と云ふものは農家に實地之を當てはめるに就てはむづかし過ぎる、年を考つた方の方考へであるけれども一体に法律と云ふ事はキツパリ楷書で書いてある、産業組合は矢張り全体の規則の孫みたいなもので、其孫みたいなものを假名で書くことは出来ない、續きが合はぬからと云ふのであるが少しむづかし過ぎる、規則で決めてあるから仕方がない其通りやるとしても、それを心得て行ふと云ふ事がなか／＼むづかしい、先づなるべく簡略にして例へば帳面の記け方が少し位の間違つても、登記の届出でが少し位の日限の後れたのや何かでも兎や角云はぬで、又形の上になつても規則は斯うだ、何は斯うだと餘りむづかしく云はぬで、年度末の報告書なども餘り内實は其通りに運んで居りませぬものがあり又實際事務が能く行つて居るものにも随分帳面の記け方なをに間違ひがある、決して疎略にして宜いと云ふ事ではございませぬが、出来るだけ矢張り御同然に斯う云ふ事は馴れぬから、帳面の記け方位は違つても其仕事が其方面に向つて居ればそれで宜いとして、間違つたのは直して置けば宜いと云ふ位位の事にして置いて宜いと思ふ、

其次には區域を狭くします、殊に此千葉県でございしますと東京の近所でございします、従前の事は能く心得ませぬが、思ふに徳川さんの御近所でございますから大きな藩と云ふものはありませぬ、それで人の纏まりが付かない、一体産業組合の性質から申しますると、村の自治の經濟の方から云へば一村を一團としてすることが希望

には違ひないけれどもさうばかりも往くまい、纏まりが付き悪くからう、愛知県で一村一團の産業組合は成立つても千葉県ではそれ等の事情から三十人四十人の一部落で始まりは極く小さく纏まれば宜いと思ひます、

モウ一つは既に今日まで成立つて居ります色々の團體がございします、衛生會、農業會、青年會と云ふ風にやる、衛生會あたりの人は衛生の事を専門として居る、農業は農會を専門として居る、青年會は青年會と云ふ風にやる、それは悪くはないけれども、それを受身になるのは矢張り同じ人であります、一つの會が出来ると、それに連入つて中絶取られる、又會が出来ると又取られる、這入る人は一つで世の中は段々錯雜して来るさうであります、是等は成るべく一つに纏めて直接の關係のあるのは農會でございしますから其農會あたりで一緒にやつて看板を二枚掛けやに出来るならば同じ人がやるとなれば至極宜しい、衛生會、農業會には内務部長が来た、農會には知事さんが来たと云ふて別の看板を掲げて色々の人が来ると云ふ事は臆却になりまして、受身になる方面から見ると唯煩雜になりますから、時に依り場合に依つては成らう事ならば既設の團體を仲能く話し合ひをして相談をして餘り會ばかりを拵へると云ふ事は宜しくないかと思ふ、斯う云ふ事があります、埼玉県であります、農事講習をやつたものが農友會なるものを拵へてモウ十何年かになる、所が近來内務省から青年會の御獎勵がある、そこで今までやつた従来の農友會と云ふものを潰せと言ふことは内務省で云ふではございませぬが、御獎勵の結果勢ひ從來あつた農友會を潰し又、知事さんも其氣持であるから之を潰して埼玉縣では青年會と云ふものを拵へた、其會員になつて活動して居る人は誰かと云へば矢張り同じ人がやるのであります、聊さかな事ではありますけれども擧揚者となり局に當る人の矢張り威厳見聞と云ふ事に其邊は關係いたします、

其次には先刻もお話をしました、自分では帳面の記け方は別に存じませぬが兎に角此産業組合に就ては帳面の記け方がむづかしいやうになつて居る、さう云ふ必要はあるまいと思ふ、私共少しばかり規則をかじつて居りますけれども、務める事もあるが分らぬとなると、縣廳でも那役所でも分らぬ同志が寄つて居るやうなものであります、それでは往けない斯うたと云ふ風で其時に當つて區々になつて能く分らないのがある、是が昔の大規模な

此は誰でも出来る、それこそ今の産業組合法に當てはめてやろうと云ふのはもろ無理では本からかと思ひます。それから一番仕舞の注意の簡便は自分で演説をしては往かせぬ、産業組合は必要なものだ、此共両方に依りなれば農村自治の發達は出来ないと云ふ位のお事でありませんが、私もさう承はつた一人でございます、さて其事を自分で斯う云ふ所へ立つて演説をしては往けない、それは矢張り加納子爵が来て演説をするまゝ云ふならばあれを頼つた方が宜しい、平田さんが産業組合の講義をする、それを首を曲げて聞いて居る、例へば此縣廳のお方に御話を聞ふ、私共も其一人でございますが、さう云ふ人を雇つて来て其人に喋りさせる、自分は大事の人と共に話を聞いて、平田さんが斯う云ふ事を云つた、加納子爵が斯う云ふ話をしたがどう云ふものだと恍惚けて大勢の人に相談をする、産業組合は斯うなければならぬと云ふ事は腹に焼らもありません、平田さんなり加納さんよりもつと村料を有つて居る人が大勢居るが、人に之を云はせる、自分で云つては往かぬ、下手でも齋藤のやうな者でも呼んで喋りさせる、其方が宜しい、唯一場の講義、演説會と云ふなどはそれで宜しいけれども之を一つの機會として信用組合産業組合を控へ其局に當る人は自分では云はぬ方が宜しい、時と場合に依つて誤解があります、演説の上手下手と云ふのは一時の事で、其事を能く汲取つてやれば宜しいので、是等は其局に當る人の心得で、詰り是人を立てると云ふ事に参りませう、其分別が付きましたならば産業組合、信用組合、何もさうむづかしい事は無い、併し是は私共のやうな嗜みの淺い者でございます、自分ばかり分る者のやうに心得て人は皆分らぬやうに、其んな風に申しませうけれども、皆を寄ると其人に接し其ものに當つて、其人から其者から何か自分で覺悟をやらすれば大概分別のない人はない、それをさうせうに乃公が業いご云ふ風にやつて仕舞ふと皆往けなくはなる、第一自分の家で老人は往かぬものだからと神も佛も要つたものぢやない此節は我々若夫婦でなければ往かぬものなつて仕舞ひますから、矢張りさう云ふ風は人を立てると云ふことは、是は世の中一體の方面から見ましたので、此所に集つた方と云ふのはさういませぬ、全体でございますが、彼等御方人を立てると云ふ事は、是れ

あつて、例へば知事さんにしてしましても、部長さんにしてしましても、此道路を造らなければならぬ或は何をする、さうすると何だ悪魔な事をやる、其進會をする、知事も詰らない事をやつて往けないと云ふ、是は人を立てると云ふ事をしないので宜しくないので、成る程其進會も見方に依つては悪口を云へませう、何でも其んなもので、皆へた其人の氣持を云へば何等か一つの機會として幾分つゞでも進む機會にしたいと云ふ氣持があるに違ひない、それを汲取らずして悪く云ふ、お祭り騒ぎをやる、知事も往けない、内務部長も往けない、部長も往けないとなる、又部長さん、警察署長さんが何所で酒を飲んだ、固より人間でございます、御同然に年中間違ないと云ふ事にも往かない、若しあつたら辭かばコソソリ其人に言ふに限る、新聞に投書したり何かするのは其人を殺すやうなものだ、人を立てる所ではございませぬ、同じ事ならば辭かば其んな事はやらぬが宜いと注意をする、さうすればどんな人でも肯く、人を立てると云ふ事はむづかしい問題でございますが御同然に工夫をして往かなければいけない、産業組合を形の上にて造ると云ふ事ではなく本當の品物を拵へると云ふのは結局其所等にあると思ひます。

尙附加へて新聞紙の掛川に報徳社があります、此遠州の報徳社は岡田さんと云ふ人が昔から世話をしてござるのであるけれども、其内容の種かりするやうになつたのは伊藤と云ふ老人がやつたのであります、其老人が報徳社の資金の融通の事に就て私共と先年話しましたが、其老人の云ふのは報徳社は今日の産業組合のやうなものであります、法律の方から云ふと何ともなつて居らぬけれども、報徳社を造つて小前の農家で成立たない者をやつて行くやう、兎に角大勢の人が集めて行くと云ふ事はさうしても金を使はなければ往けない、又金の積立もしなければならぬ、其金の融通と云ふものも先づ十のものなら四分で跡の残りの六分は報徳社員が時々集つて間違ひ事のないやうに、詰らぬ事で喧嘩でもしないやうに教化する、六分は教化さ云ふ方に重きを置いて跡の四分を金融の方に使ふ、さうして始めて今日報徳社の農業資金の融通が滑らかに行くものだと云ふ事を教はりました、伊藤と云ふ老人に御話を聞いたのであります。

御免を蒙ります(拍手喝采)

産業組合中央會講師

櫻田由平君

私は唯今御紹介を受けました者で、今日は此大會に副會頭が臨れるのでお供をして参りましたやうな次第で、前に立ちまして申上げやうと云ふ事は何等用意もして参りませぬのでございます、殊に今朝来怎う有益なるお話を聴きになつた跡で、私から申上げる次第でございますから何等面白味も亦利益もなからうと考へますが、まだ小松原副會頭が見へになるのには少し時間があるやうでありますから、其間の楔と致してチヨット御挨拶少々申上げて置きたいと思ふのであります、

今朝はと加納副會頭からして、此地方の發達を圖る爲めに産業組合並に青年會其他のものが重要な中心となつて往かなければならぬ、さう云ふ事でございますので、私はチヨットそれに付て地方へ出まして視察いたした事がございますので、多少それに該當するかと思つて今朝ほどのお話を唯補足すると云ふまでに止めて置きたいと思ふのであります、それは愛知縣の海西部名古屋から西の方二里ばかりの所に當りまして鎌倉村と云ふのがあります、其所に信用組合がございます、此所は木曾川河口に當つて居りまして非常に廣い平原であります、爲に其地方には大きな地主がある、さうして小作人が其下にあるが、又地主と小作人との爲に世話をして居る者がある、詰りそれが普通に云ふ小作である、實際使つて居るのは孫作、其下に居る、詰り是が孫作と稱へるものだと思ひます、さう云ふ所でありまして随つて此實際小作と云ふれから地主との間に意思の懸隔がある、始終小作の收納期は重つて喧嘩口論は絶へなかつたのであります、所が明治二十三年頃になりまして榎江史郎と云ふ人が此土地の地主、自分の親の跡を襲いで行くさう云ふことになつたのであります、斯う云ふ土地であるからして何等かの方法を以て意思を和らげなければならぬと云ふ事を種々工夫を致した結果として、茲で信用組合と云ふ事

を思ひ立ちました、それが爲り明治三十五年になりまして組合を造つたのであります、それまでには随分苦辛を、人を纏めるのにも随分苦辛をいたしました、反對論者もありません、殊に地主の中に於ては、信用組合などを拵へたならば自分等が折角金を貸付けてくれ相當に收得のあつたものがそれが減する譯になる、却つて斯う云ふ組合を拵へたならば自分等の害になると云ふので非常に反對をしつゝあつたさうであります、所が色々話をしてそれ等の事を説付けて、愈々組合を拵へる場合に至つても役人を選挙するのには最も苦辛をした、小作人の側、孫作の方の側、地主の側の人を相當に配置しました、殊に今まで反對して居つたやうな人は是は監事と云ふ風にして、實際の事務に當らないでそれを監査して行くさう云ふやうな事にしたのであります、組合を拵へてから最初に苦辛したのは組合の資金を拵へる、是はさうしても他から金を借りて來るのでは面白くないから先づ出資以外に貯金と云ふものを十分に行かなければならない、貯金を拵へるのに最も苦辛をしたのは、定期貯金と云ふものも勿論やりましたが、種々の名義を拵けて一定の据置貯金とする、其名と云ふものは子供が大きくなつた、婚禮をする、其婚禮の爲めに貯金をする、婿取り貯金或は徴兵貯金、教育貯金、斯う云ふ風に種々の名目を付けて其目的に向つて支出をするさう云ふ事にしたのであります、是は他にも一二やつて居る所があるやうであります、例へば子供が生れた時分には其人に組合から貯金の通帳を渡して置く、さうして段々貯金を殖やして行くさう云ふ方法を設けたのであります、今日では僅かな一部落ではあります、組合員は五十四五人で、其苦辛をした爲めに全部組合へ導入ると云ふ事になつた、それで組合が貯金をしたのが五千圓ばかり出來た、尙其他に出資した資金もありません、それで組合は貯金したばかりでは往かぬ、之を有利に使ふと云ふ事に就て其方法には最も苦辛をした、主として農業に使ふ資金は、普通の資金よりは特に廉く貸付けてやる、堆肥小屋を建て、さう云ふのには廉く貸付ける、堆肥小屋建築と云ふ事の奨励になる、又普通人造肥料の購入と云ふ事にも注意したのであります、それから同時に二毛作と云ふものも餘りなかつた、それを奨励する爲めに其方に最も金を使つたのであります、それが爲め二毛作も多く造るやうになつた、此土地は枇杷の産地であります、其一村で栽植した枇杷を集めて

れを名占屋へ出す、尙ほ桃と云ふものを栽培もやつた、此蟹江と云ふ人が自から自分の家の園を開いてそれを家庭果樹園と名付け組合員が組合に金を借りて来たり貯金を預けに來たりした時分に始終此の果樹園を見せて、苗木か丁度育てる時期になつて其苗木が欲しいと云ふ者があればそれには無代で配付する、又苗木の付く時分に來て見せると云ふやうな工合に最も果樹の栽培と云ふ事に興味を持たせる事に骨を折つたのであります、それが爲め果樹を造る事が殖へて來た、又一方には共同購入、共同販賣と云ふ事もやつて、それは組合としてやつて居るのではなく唯個人で互ひに其仕事をやつて居ります、其次に最も苦辛したのは唯組合を拵へただけで斯う云ふ事に事業は擧つたが、組合員が共同一致して最も此精神の開發と云ふ事に努めなければならぬ、其事に就ても大に苦辛して居るのであります、それは先づ月に二回、少なくとも一回は組合員を集めましてさうして其月に於てさう云ふ仕事をしたとかするとかと云ふ事を話合ふ、共同購入の約束もする、時に依り縣廳から、農に齋藤さんか御話のあつたやうに折々來て貰つて種々の話をする、其の蟹江と云ふ人も矢張り組合員の一人となつて其時分には出て來て聞いて居るので、又自分にも多少取られた事があれば必要に応じて話すと云ふ事もやつて居ります、それは月々やりました、尙ほ年に一回大會を開いて、其大會の折には組合員の戸主ばかりではなく家族、家の老人も子供も内儀さん等全部出て來る者は家庭果樹園に集め、總會は勿論であります、特に其時分には老人と云ふものは上座に据へ尊敬をする、尙又餘興を設けてお伽話、著音機などをやつて最も一日を愉快に暮らせることに骨を折つたのであります、それ等の費用は多少組合から出しますが、蟹江と云ふ人が、自分が東京へ一週行つて來る考へなれば何でもないからと、それ等の費用は東京へ行つて來る代りとして其費用を支出して居るのであります、さう云ふ意志の人がありましてそれが爲め組合員と云ふものは十分に愉快が盡されるのであります、斯の如く組合も圓滑になつて居ります、尙ほ青年會の方も又注意を以て居るので、それは最早時間もありませぬから餘り委しく申上げる事も出来ませぬが、車輪を造つて其財金をやつて居ります、青年會の人は年に一回會回して旅行をなさして居る、旅行して來て

其視察談をお互ひにすると云ふ事をやつて居るのであります、是は餘ほど面白く感じた、尙ほ其村に於て中學生衆生が二名ほどある、それが主となつて夜學をやつて教授をして居ります、斯う云ふ風にして青年會と云ふものも能くやつて居ります、

特に私が感しましたのは蟹江と云ふ人に遇つた所、此人はもふ年を老つたお爺さんであります但其話に、私は年を老つて何等の樂みもないが唯此地方が段々發達して行くと云ふ事が自分の樂しみとする所で、丁度自分の村に於ける信用組合は一家に例へて見ると丁度銀行のやうなもので、金が入用の時分には其金を取つて使ふ、又金が利つた時分には其所へ預けて置く、それから尙ほ自分の村と云ふものは丁度自分の一族のやうに考へる、村の子供が段々大きくなつて色々公共の爲めに働らくやうになれば自分の子供が働いて行くやうに考へる、此村の榮へて行くと云ふ事は自分は何よりの樂みだ、唯今後一層もう少しやつて見たいと思ふことは此所は非常に排水の悪い所であるから排水機械を据付けて、さうして十分に排水をさせて、排水機械も生産組合の仕事としてやつて見たいと思ふ、さうしたならば其機械を以て精米の機械も是非連續させてやりたい、是は今後自分がやつて見たい考へであるが、モウ自分も年々寄つて來たしどう云ふ風になるか知らぬが、今の青年と云ふものが段々働いて來て居るから自分がしないで青年が跡を受繼いで呉れるからさう心配はないと話をして居いた、實に私は今朝加納副會頭が御話になつた説を幾らか茲で實現して居るものであると云ふ事を話の中特に思ひ合せて感じたのであります

それで甚だ失禮でございますけれども是だけの御話を申上げて御参考に供して置きます(拍手喝采)

## 七 産業組合經營實驗談

五月八日産業組合に於ける

### 匝瑳郡母子信用組合理事實驗談

匝瑳郡母子信用組合理事

齋藤清平君

私は唯今御紹介を受けました匝瑳郡無限責任南條村母子信用組合の理事でございます。私の組合は明治三十七年の創立でございます。未だ僅か七ヶ年を経過しただけで甚だ日は浅いのでございます。随つて區域も狭し勞々致して今日諸君の前に於きまして御話を申上げる材料は殆ど無いのでございますが、唯今お呼出しになりましたから其責を盡さす爲めにノート經營上の一端をお話して置きます。幸ひにして諸君の御參考になる事がありましたならば甚だ幸福と考へます。

組合の經營を御話致しまする前に當りまして、組合創立以前に於ける自分の土地の状況を簡単に話申上げます。南條村母子區と申しまするは、舊武線横芝驛と八日市場驛との丁度真ん中に當る部落でございます。戸數は僅かに二十四、耕地は僅かに三十町歩ばかりのハンの小部落でございます。農業を以て本業と致し、養蠶を營み、副業として羽越を製造いたして居ります。羽越と申しますのは、能く海岸などで干綱を造りますのに干しすすあの越でございます。此羽越を製造いたして副業として居るのでございます。耕地の三十町歩ばかりある其殆ど大半と云ふものは隣村の地籍になつて居る。隣村の所有に屬して居るのでございます。此處して居る半分と云ふのは上田と中田で中以上の分が隣村の所有になつて居ります自分の方の所有になつて居る地籍は其下にあつて甚だ疎忽な土地であるのであります。さうして其耕地の上に約三町歩ばかりの溜池があるのであります。溜池と申しても常に水を貯へて置くのではなくして、其グルリには田があります。所謂田付でございます。是も矢張り

隣村の所有になつて居ります爲に殆んど其親田の用水にも缺乏して四五日も照りきますと、親田の全面が乾燥して仕舞ふ、甚だ灌溉が少ない土地であるのであります、併ながら其れを利用すれば随分用水が出来るのでありますけれども、鄰村の所有でありますから之を利用することが出来なかつた、爲めに産業は振ひませぬ、日に月に頻りに傾く状態になつたものでありますから、不肖などを始めとして土地の有力者が大に憂ひまして、此溜池と云うして耕地を我が手に入れることが出来なかつたならば到底安心して百姓を致して居ることが出来ないと云ふ考へから、非常な困苦と非常な熱誠を以て多大の村金を募りまして遂に高價で買得いたして漸くにして溜池を手に入れることが出来た、それで一時面目を新たにすることが出来ましたけれども、此世の中の進歩と共に隨處武蔵が敷設になり、電信電話が加ると云ふ譯で、一面に於ては甚だ結構でありますけれども、其裏面には交通運輸の便に伴ふて非常に忌むべき弊風が移入をして來たのであります、所謂愛すべき質朴の心を以て百姓共が此都會人の風を真似ると云ふことになつた、都會人に拮抗して働らくならば宜しうございしますが、最も忌むべき風を移入して來た爲めに非常な風紀の墮落を來しました、所謂實直を忌むやうになつて逸樂を好むやうになつて來た、自然懷ろに金が無くなつて來た、農業資本の缺乏と云ふ事が起つて來た、併しながら要る金はどうしても要る譯であるから、其時期になると苦し紛れに一時を補ふと云ふ考へから非常な高利でも忍んで借る、一時の急を凌ぐと云ふ状態でありますから益々困る者は困る、爲めに債鬼は毎日攻掛けると云ふやうな状態が一方に現はれました譯でありますからして、どうかして此風を救済しなかつたならば安心して農業が續かないと云ふ考へから、丁度明治三十七年に此信用組合を創立して、此の信用組合の力を以て纏つて見や溜池を創立した次第であります、唯今申上げた通り區域内が狭い、僅か二十四戸の少部落でございすから全部組合に這入り、出資口數五十七口、出資拂込が四十一年の暮に千七百十圓ありました、準備金が斯様な狭い區域で金高は甚だ少ないので、明治三十八年には七十五圓一錢、四十三年の暮には積立ました金額がチヨット八百圓ばかりに上つて居ります、貸付けまするのは成るべく組合員の精神的方面の改善を圖るが爲めに抵當物件を取らない對人信用で、信用組織

を本体として居ります、組合員から貸付の請求がありました場合には理事は其用途に就きまして深く調査をして可否を決して貸付けると云ふ事にして居ります、貸付の期間は普通六ヶ月と致しますけれども、場合に依つては一年、それ以上のものであります、利率に於ても金融の緩急に依つて多少率に於ても斟酌は致しますが普通一割と云ふ標準に致して居ります、貸付金の回収と云ふ事に就ては最初は非常に心配をしたのでありますけれども、明治三十七年から七ヶ年に貸付ました金額は約一万五六千圓に達して居ります、けれども未だ回収上餘り苦痛もありません、頗る今日まで好成绩を擧げて居ります、貯金でございすますが、貯金は二種に別つて居ります、定期貯金、普通貯金と云ふ事でありす、此定期貯金と云ふのは一名不動貯金とも申して居ります、非常に窮屈な貯金であります、それは先程御話申上げました土地の副業物産を以ちまして、是が出費一口に就て一日一枚づつ義務貯蓄をやらせました、之を月に二回事務所に持参させましてさうして理事が仲買を寄集めまして、之を競争入札に付して賣つて仕舞ひます、それを貯金に租入れます、之を定期貯金として居ります、一体貯金も種々の名義をもつて致しましたけれども、自分の懐ろから預けて貯金をさせた所が矢張り困る事がありませんと思ひ出しては引出して使つて仕舞ふ傾きが往々見へますから、何でも勝手に出来ないと貯金をさせてやらうと云ふ考へからさう云ふ方法にして居ります、普通貯金と云ふのは矢張り銀行通り取扱ふのであります、普通貯金は銀行同様何時でも預ける引出す事も出来る、一方の貯蓄は解散まで渡さない事にしてあります、外に組合の別働隊を組織して居ります、それで成るべく節約し得た金を貯金させると云ふ仕組にして居ります、其別働隊と申しますのは養鶏を奨励して養鶏貯金をする、其生んだ所の卵を持集めて之を競賣に付して其代金を積ませる、或は矯風貯金と云ふものを設け今日まで御祭り事とか云ふ時には非常に金を使つて居つたものであります、其組合の理事が詰り儀式的の委員になりまして其所の家へ参りまして其家の等級財産に依りまして、それだけ使ふ所の御祭りや或は日掛する所の金の内に節約し得る所の幾分かを積ませる、又それ以上に節約し得たものは普通貯金に積ませる、害虫驅除期には農回やつて居ります、成るべく共同一致して諸事業をやらして居ります、其請負をして拂つた



所の幾分かを矢張り組合方に貯金させると言ふ様な事もやつて居ります  
 實は突然の御呼出しで何の考へもなくやつて参りました丈けを御話致しました甚だ具体的に一々御話申上げる  
 事の出来ませぬのは遺憾な次第でございます、是が自分の組合でやつて居ります状況の一斑でございます、何れ  
 又折を見まして御話を申上げる事に致します本日では是で失禮を致します(拍手喝采)

### 八 産業組合成績品展覽會ノ概況

本縣産業組合成績展覽會ハ各産業組合ノ發達未ダ幼稚ナルヲ以テ優良ナル成績品ヲ得ル不能リシト各縣ヨリノ出  
 品少ナキトニヨリ豫期ノ目的ヲ達セサルノ遺憾アリント雖モ其成績品ハ地方資料展覽會ノ一部ニ陳列シ廣ク衆  
 ノ展覽ヲ許シタルバ時恰モ本縣共進會開設ノ好機ナリシヲ以テ該陳列品ハ儘ニ幾萬ノ觀覽者ニ認識セラレ且縣下  
 産業組合聯合大會ノ前後ニ於テハ多數ノ出席員ニハ特ニ觀覽上ノ便宜ヲ與ヘ出品物ニ對シ説明ヲ加ヘタルヲ以テ  
 組合經營者ノ爲メニ資スルトココ妙ナカラサリシヲ認メ茲ニ展覽會開設趣意書、展覽會規則、成績品目錄等ヲ記  
 録シテ後日ノ參考トス

#### (イ) 産業組合成績展覽會開設趣意書

本縣下ニ於ケル産業組合數今ヤ百五十二垂々トシ尙漸次其ノ數ノ増加ヲ見ルハ甚ダ喜フベシト雖之ヲ他ノ先進地  
 方ニ比スレハ未ダ遜色ヲ免カレサルノミナラス其ノ經營ノ方法ニ至リテハ頗フル幼稚ニシテ充分其ノ効果ノ認メ  
 ラレサルハ頗フル遺憾トスル所ナリ惟フニ産業組合ノ經營タル一見甚ダ容易ナルカ如シト雖多年之レカ研究練磨  
 ヲ爲スニアラサレハ如何ニ熱心ナル理事者ノ手腕ニ俟ツモ決シテ其ノ効果ヲ舉クルコト能ハサルナリ依テ當支會  
 ハ明年五月本縣千葉町ニ於テ縣共進會ノ開設セラレ、ヲ機トシ産業組合成績展覽會ヲ開設シ縣下ニ於ケル産業組  
 合ノ成績ハ勿論全國ニ於ケル各種産業組合成績ノ優秀ナルモノヲ一堂ニ陳列シ彼此其ノ成績ヲ比較研究セシメン  
 トス若シ夫レ營業者各位カ本會ニ依テ以テ互ニ長短相補ヒ尙且ツ其ノ記録ニ付テ經營者ノ苦心ヲ窺ヒ知ルコトヲ  
 得ハ將來組合事業ノ進歩發達ニ向ツテ多大ノ利益アルヘキヲ信ス希クハ各産業組合經營者及其ノ關係各位ハ此好  
 機ヲ利用シ競フテ其ノ苦心經營ノ事蹟ヲ出陳セラレ益々新業ニ貢獻セラレ、ト同時ニ本會開設ノ趣旨ヲ全クセラ  
 レンコトヲ望ム

明治四十三年十二月十一日

(ロ) 産業組合成績展覽會規則

第一條 本會ハ縣下産業組合ノ發達ヲ圖リ組合事業ノ效果ヲ多大ナラシメン爲メ明治四十四年五月五日ヨリ國民  
十六日迄千葉縣千葉郡千葉町ニ於テ之ヲ開ク

第二條 本會ニ於ケル出品物ノ陳列ヲ左ノ二部ニ分ツ

第一部 産業組合經營ノ方法及其成績

第二部 組合員ノ施設ニ係ル地主會、青年會、報德會、婦人會ノ事業經營ノ方法及其成績

(イ) 地主小作人保護獎勵ニ關スル組合員ノ施設經營ノ方法及其成績

(ハ) 組合員タル篤行者ノ事績

(ニ) 組合員ノ家憲家訓

(ホ) 組合ノ貯金箱(貯金獎勵上特ニ考案シタルモノ)

(ヘ) 其他産業上參考トナルヘキ施設事項ノ方法成績

第三條 前條ノ出品物ニシテ他ノ府縣ニ係ルモノハ總テ參考品トシテ之ヲ取扱フ

第四條 陳列裝飾ニ要スル普通ノ設備ハ本會ニ於テ之ヲ負擔シ出品物ノ運搬費ハ各自之ヲ負擔スルモノトス但シ  
返付ニ要スル運搬費ハ本會之ヲ負擔スルモノトス

第五條 本會ニ於テ有益ト認メタル出品物ハ謄寫抄録シ又ハ之ヲ撮影印刷スルコトアルヘシ

第六條 陳列品ハ本會ニ於テ相當ノ保護ヲ爲スト雖天災其他避クヘカラサル事故ニ因ル損害ハ本會其實ニ任セス

第七條 出品物ニシテ解説ヲ要スルモノハ其ノ解説書ヲ添付スヘシ

第八條 出品アナサントモルモノハ別紙様式ノ出品目錄ヲ作製シ出品物ト共ニ明治四十四年二月末日迄ニ之ヲ本

會ニ差出スヘシ

第九條 開會中ハ毎日衆庶ノ縱覽ヲ許スモノトス

第十條 縱覽人心得ヘ別ニ之ヲ定メ會場ニ揭示ス

産業組合成績展覽會出品目錄 (様式)

郡市町村大字

出品人組合名又ハ氏名印

郡	品名	數量	備考

(ハ) 産業組合成績品目錄  
一、産業組合經營ノ方法及其成績

- 千葉縣 積橋信用販賣購買組合
- 市原郡 東國青信用組合
- 大和田信用組合

君津郡	全	全	匝	全	全	海	全	全	全	全	香	全	山	長	全	全	全	全	全	印
			滋			上					取	武	生							府
			郡			郡					郡	郡	郡							郡
吉野信用組合	東陽村入區信用組合	東郷農友信用購買組合	南條村母子區信用組合	飯岡信用購買組合	足川信用購買販賣組合	新川信用組合	高倉信用組合	扇島信用購買販賣組合	清和信用購買組合	共成信用組合	和協信用組合	姫島報德信用組合	千代田信用購買販賣組合	廣南信用組合	布鎌村購買販賣組合	布鎌村信用組合	保品信用購買組合	根郷村農事信用組合	中郷信用購買組合	

一、組合員タル篤行者ノ事績

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	市	匝	長	全	山	匝	安
											原	璣	生	武	璣		
											郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
貞元信用組合	小糸信用組合	馬來田信用組合	豊岡信用組合	岩阪信用組合	宿戸信用組合	西畑信用組合	大神宮信用組合	曾呂村畑信用組合	大和信用組合	東郷農友信用組合	長柄村五區信用購買組合	立木信用組合	千代田信用購買販賣組合	榑信信用組合	山名信用購買組合		

一、産業組合成績ニ關スル圖表

一、小作人保護獎勵ニ關スル規程

一、産業組合經營ニ關スル寫真

一、組合ノ貯金箱  
 長生郡 立木信用組合  
 山武郡 娘島報徳信用組合  
 海上郡 銚子信用組合  
 全郡 海上郡役所  
 香取郡 和協信用組合  
 海士郡 旭町新川信用組合

二、組合經營上參考ナルモノ  
 事業報告書

村法及義務契約証

事業執行細則草案

米券倉庫組織ノ産業組合

他府縣之部

一、信用組合一級  
 第九回事業報告  
 出資証券

長生郡 立木信用組合  
 海上郡 海上郡役所  
 千葉縣廳 渡部啓次  
 長生郡 立木信用組合  
 長生郡 立木信用組合  
 海上郡 海上郡役所  
 千葉縣廳 渡部啓次

一、定期預金証書  
 一、加入申告書  
 一、出資金繼承申告書  
 一、出資金讓渡讓賣申告書  
 一、借入金申込書  
 一、借入金証書  
 一、特約借入金証書  
 一、出資金假領收書  
 一、加入金ノ内容  
 一、貯金箱  
 以上十三點

一、經營之方法及成績

一、信用組合一斑

一、組合業績

一、懸賞募集貯金箱

東京府 入新井信用組合  
 岡山縣 岩田信用組合  
 兵庫縣 岡村信用組合  
 京都府 吉川信用購買販賣組合  
 産業組合中央會

(寫眞ノ説明)

一、道路開修組合員共同作業ノ光景

一、立木信用組合事務所ノ景

一、立木信用組合役員ノ撮影

一、立木信用組合事務所ノ内部

一、立木信用組合諸帳簿ノ陳列

一、銚子信用組合理事大橋幸吉君

一、空 理事柳堀喜一郎君

一、産業組合講習會紀念撮影

一、伏見文庫少年讀書室

一、伏見文庫ノ内部

一、伏見信用組合洋式應接室

一、伏見信用組合和式應接室

一、伏見文庫ノ外景

一、伏見信用組合事務所ノ外景

山 武 郡

姫島報徳信用組合

長 生 郡

立木信用組合

海 上 郡

銚子信用組合

海 上 郡 役 所

京 都 府

伏見信用組合

- 一、伏見十六會ノ外景
- 一、伏見十六開社
- 一、伏見信用組合附屬倉庫
- 一、伏見十六會本部

京 都 府

伏見信用組合

### 産業組合貯金奨励歌

丸 山

操 (寄稿)

時は明治の四十五年  
 わかちよ上か庭園に  
 其の實結べは年毎に  
 今より指折り数つゝ  
 大神宮てふ信用の  
 實と組合なるものは  
 心となして貯金せよ  
 貯金は富の基ひなり  
 英國、獨逸佛蘭西や  
 世界に名高き喜以峰  
 日社樂く俟たれける

長閑き五月我が縣に  
 植多開ひたる柿樹の  
 必ず七八つ取入れて  
 樂み深くあそべるは  
 組合員のをさな子ぞ  
 感化の及ふ其の力  
 貯金は夢にも忘るな  
 貯金は國の財らなり  
 丁抹や、伊太利の  
 比ま良や山の峰に迄

東宮殿下の 行啓を  
 其の名は衣紋蜂屋柿  
 是も貯金に加へむと  
 是を名高き安房郡の  
 おなうるはしき此心  
 大なるかな我友よ  
 努めよ勵めよ諸共に  
 我國民の此のたから  
 富の力に打ち勝ちて  
 樹てゝ其名を誇べき

仰まつりし紀念とて  
 早く花咲き實を結べ  
 其の實のむすお隙を  
 神戸の里に設けたる  
 おなよろこばし此心  
 此をさな子の心もて  
 努め勵みて貯金せよ  
 積りつもれば我富は  
 やかて御國の日御旗  
 日社樂く俟たれける

明治四十五年三月十四日印刷  
明治四十五年三月十七日發行

發行者

產業組合中央會千葉支會

右代表者

鷗本米司

印刷者

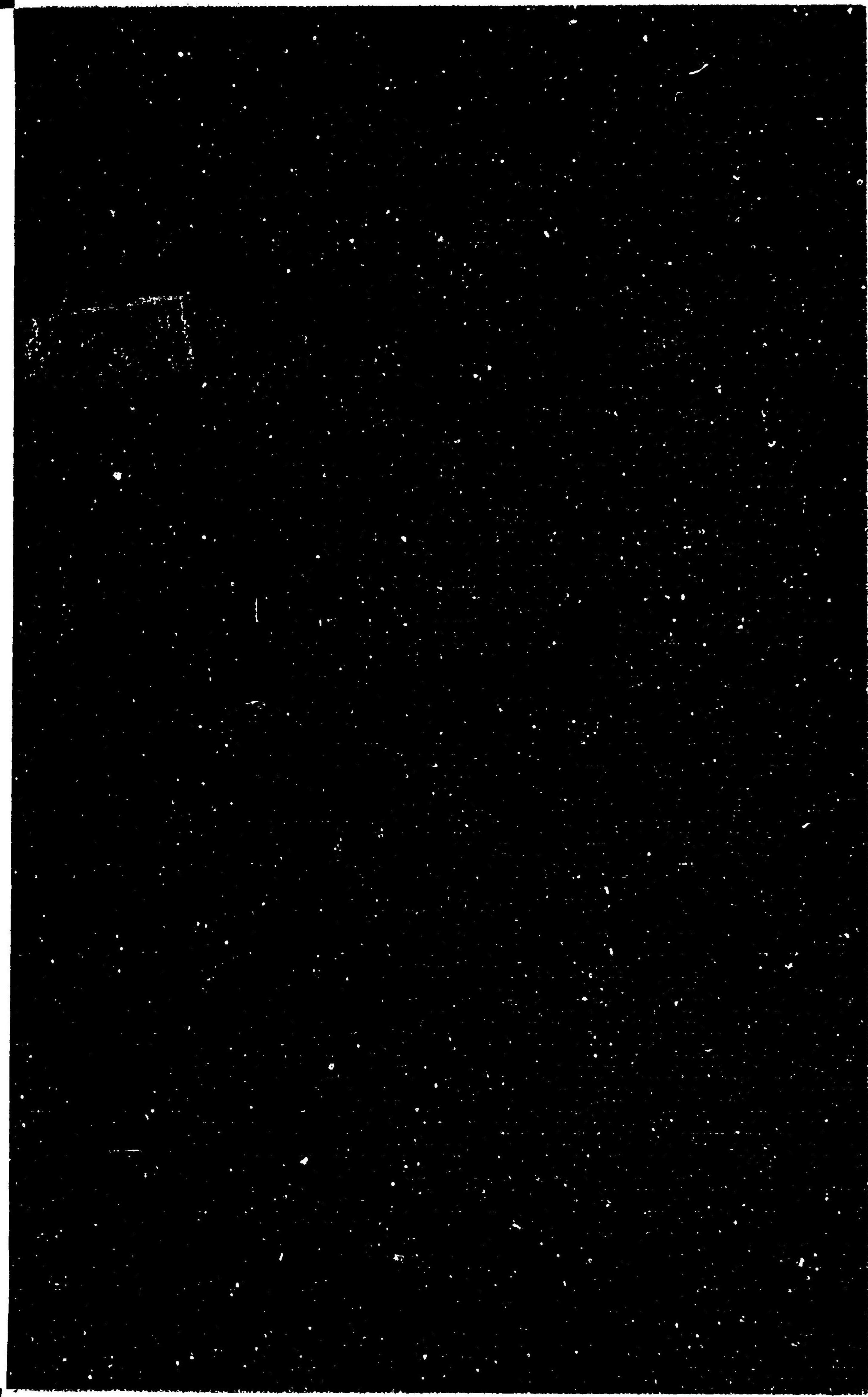
股野潛

千葉縣千葉郡千葉町  
寒川九百八十九番地

印刷所

積成舍

千葉縣千葉郡千葉町  
寒川九百八十九番地



[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]



特45

372

千葉県産業組合大会記録

国立国会図書館

041976-000-4

特45-372

千葉県産業組合大会記録

産業組合中央会千葉支会

M45

BDI-0672

